

第二十五回 帝國議會 貴族院議事速記錄第十七號

決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

明治四十二年度特別會計歲入歲出豫算追加案(特第一號)

砂礫法案

登錄稅法中改正法律案

明治四十一年法律第九號中改正法律案

北海道拓殖銀行法中改正法律案

同日本院ニ於テ否決シタル衆議院提出狩獵法中改正法律案ハ本院ニ於テ第一號)ハ即日之ヲ衆議院ニ回付セリ

二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ即日衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ議決シタル左ノ本院提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ

東京都制案

千代田縣設置ニ關スル法律案

東京都千代田縣組合法案

東京都千代田縣組合法案

東京都千代田縣組合法案

同日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

貴族院令中改正案特別委員會

委員長 公爵二條 基 弘君 副委員長 子爵曾我 祐準君

農會法中改正法律案特別委員會

委員長 侯爵佐竹 義生君 副委員長 前田 正名君

同日砂糖消費稅法中改正法律案兩院協議委員正副議長互選ノ結果左ノ適當

選セリ

議長 伯爵寺島誠一郎君 副議長 子爵加納 久宜君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案否決報告書

未成年者飲酒禁止法案否決報告書

請願委員會特別報告第六號

昨十八日兩院協議委員議長ヨリ砂糖消費稅法中改正法律案兩院協議會成案

成立報告書ヲ提出セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

輸出菓子糖果原料砂糖戾稅法案

産業組合法中改正法律案

○副議長(侯爵黒田長成君) 本日ハ議長ハ風邪ニ付キマシテ不參ニ相成リマ  
シタニ依ツテ本員本席ヲ保チマス、是ヨリ報告ヲ致シマス

〔東久世書記官朗讀〕

一昨十七日本院ニ於テ議決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

宅地地價修正法案

地租條例中改正法律案

遠洋漁業獎勵法中改正法律案

地方稅制限ニ關スル法律中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

種痘法案修正報告書

建物保護ニ關スル法律案修正報告書

商法中改正法律案否決報告書

醫師法中改正法律案修正報告書

齒科醫師法中改正法律案修正報告書

請願文書表第八回報告書

〔河井書記官朗讀〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、第一、耕地整理法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

耕地整理法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ナルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

〔小字ハ衆議院ノ修正  
ハ同削除ノ符號〕

耕地整理法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ

一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之伴フ灌漑排水ニ關ス

二 ル設備若ハ工事設備又ハ其ノ維持管理

三 前二號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕

第二條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ整理施行地ニ付所有權以外ノ登記タル權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第三條 耕地整理ヲ施行セムトスルトキハ設計書ヲ作リ關係人ノ同意書ヲ添ヘ數人共同シテ施行セムトスルモノニ在リテハ尙規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ヲ變更シ若ハ一人ニテ施行スル耕地整理ヲ變シテ數人共同ノ施行ト爲シ又ハ事業ヲ停止若ハ廢止セムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ耕地整理施行ノ爲爲シタル借入金アルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ事業ヲ廢止シ、整理施行地區ヲ減少シ又ハ債務ノ分擔ニ關スル規約ヲ變更スルコトヲ得ス

前項整理施行地區ノ變更ニ依リ新ニ整理施行地區ニ編入セラルヘキ土地ニ付テハ第一項ノ同意書ニ關スル規定ヲ準用ス  
地方長官第一項又ハ第二項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

設計書、規約若ハ整理施行地區ノ變更又ハ事業ノ停止若ハ廢止ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前五項ノ規定ハ耕地整理組合ニ之ヲ適用セス  
第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ整理施行地ノ所有者、占有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 整理施行地ノ所有者ニ屬スル耕地整理ニ關スル權利義務ハ土地ノ所有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス  
前項ノ場合ニ於テ被承繼人ハ其ノ土地所有權移轉登記前ノ義務ニ付登記後二年間承繼人ト連帶シテ其ノ責ニ任ス

第六條 本法中別ニ規定アル場合ヲ除クノ外土地ノ所有者、占有者、關係人其ノ他整理施行地ニ付權利ヲ有スル者ハ耕地整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第七條 地方長官又ハ郡長耕地整理ニ關スル調査ヲ爲ス爲必要アルトキハ官吏又ハ吏員ヲシテ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲シ障害ノ竹木土石等ヲ移轉若ハ除却セシムルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ土地ノ占有者ニ之ヲ通知スヘシ  
前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 前條ノ規定ハ耕地整理施行<sup>○若ハ耕地整理組合設立</sup>ノ認可ヲ申請セムトスル者<sup>○又ハ</sup>其ノ○施

行者<sup>○若ハ耕地整理組合設立</sup>ノ設立ヲ具申セムトスル者又ハ耕地整理組合ノ創立委員カ整理施行ノ爲必要ナル準備ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 耕地整理施行<sup>○認可ヲ申請セムトスル者下</sup>其ノ○施<sup>○又ハ整理</sup>行者<sup>○若ハ耕地整理組合設立</sup>ノ設立ヲ具申セムトスル者又ハ耕地整理組合ノ創立委員ハ整理施行スル登記所、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閲覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得但シ耕地整理組合ノ創立委員及組合長ヲ除クノ外其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出スヘシ

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登録税ヲ免除ス

前項ノ規定ハ耕地整理ノ施行ニ伴ヒ大字若ハ字ノ名稱又ハ其ノ區域ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 耕地整理ヲ施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ

整理施行地ノ所有者ニ交付ス

耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 本法ニ依ル開墾、地目變換其ノ他土地ノ區劃形質ノ變更又ハ道

路、堤塘、溝渠、溜池等ノ變更廢置ニ關シテハ地租條例第十條ノ一乃至第十三條、第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス

第十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ整理施行地區内土地ノ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ面積カ同條第一項ニ依リ交付シタル土地ノ面積ヨリ多キ場合ニ於テハ整理施行地ノ現地價ノ平均額ヲ其ノ面積ノ差額ニ乗シタル金額ヲ現地價ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現地價ノ合計額ト看做ス

整理施行地ノ地租ハ其ノ整理施行地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スル迄從前ノ地域、地目及地價ニ依リ之ヲ徵收ス

規約ヲ以テ整理施行地區ト看做ス

第十四條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區内ノ土地總面積ノ五分ノ一前二項ノ整理施行地區ト看做ス

第五條 耕地整理ヲ施行スルニ當リ其ノ地區内ノ土地總面積ノ五分ノ一以上ニ當ル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ地目ヲ變換スル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ修正シ前條第一項ノ現地價トス

前項ノ場合ニ於テ開墾シタル土地ニ付テハ工事著手ノ年ヨリ二十年目、變換シタル土地ニ付テハ工事完了ノ年ヨリ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ其ノ地租ヲ徵收ス但シ開墾シタル土地ニシテ工事著手ノ年ヨリ二十年目ニ達シ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ十年以内ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

地租ヲ課セサル土地ヲ整理施行地區ニ編入シ地租ヲ課スヘキ土地ト爲シタルトキハ第十一條第一項ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ其ノ地價ヲ設定シ前條第一項ノ現地價トス

第十五條 整理施行地區内ノ土地中開墾著手後九年、地目若ハ地類ノ變換後五年ヲ經過セサルモノ又ハ地租ノ免除若ハ輕減ニ關スル各種ノ年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 開墾若ハ地類ノ變換ヲ爲シタル土地、地目ヲ變換シ地價ノ修正ナキ

土地又ハ鉢下年期、新開免租年期、地價据置年期ヲ有スル土地ハ工事著手ノ際地價ヲ修正シ又ハ設定ス

二 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ハ工事完了ノトキ從前ノ地

域ニ依リ其ノ地價ヲ修正ス

三 第一號ニ依リ地借ヲ修正シ又ハ設定シタル土地ニ付テハ開墾着手後十年目、地目若ハ地類ノ變換後六年目又ハ年期明ニ至リ修正地價又

ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ工事完了シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 工事完了シタルトキハ第一號若ハ第二號ニ記載シタル土地又ハ地目ヲ變換シ地價ノ修正アリタル土地ニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ第十三條第一項ノ現地價トス

第十六條 工事完了シタルトキニ於テ開墾着手後九年、地目若ハ地類ノ變換後五年ヲ經過セサル土地若ハ前條ニ記載スル年期ヲ有スルモノニシテ

年期ノ終了セサル土地又ハ第十四條第二項ニ該當スル土地アルトキハ事業關係者ハ其ノ協議ヲ以テ修正地租ト從前ノ地租トノ差額ノ利益若ハ負擔又ハ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ヲ定メ政府ニ申告シ殘年期間又ハ第十四條第二項ニ定ムル期間中ハ其ノ金額ヲ加除シテ其ノ土地ノ地租ヲ納ムヘシ但シ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十一條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス

前項ノ規定ハ行政上又ハ裁判上ノ處分ニシテ從前ノ土地ニ專屬スルモノニ影響ヲ及ホサス

第十八條 賃借地ニ付耕地整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ整理施行者ニ對シ解除ニ依リ生シタル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得但シ整理施行者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ貸貸人ニ對シ求償スルコトヲ得

第十九條 耕地整理施行ノ爲賃借地ノ利用ヲ妨ケラルトキハ賃借人ハ借賃ノ相當ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 耕地整理施行ノ爲著シク賃貸地ノ利用ヲ増シタルトキハ賃貸人ハ借賃ノ相當ノ増額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲シ其ノ義務ヲ免ルルコトヲ得

第二十一條 耕地整理施行ノ爲地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定シタル

目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者、永小作權者又ハ地役權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條 整理施行地ノ上ニ存スル地役權ハ耕地整理施行ノ後仍從前ノ土地ノ上ニ存ス

耕地整理施行ノ爲地役權者カ其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ地役權ハ消滅ス

耕地整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 第十九條及第二十條ノ規定ハ地上權、永小作權又ハ地役權ニ之ヲ準用ス

第二十四條 前六條ノ規定ニ依ル賃貸借ノ解除、地上權若ハ永小作權ノ拋棄、地役權ノ拋棄若ハ設定又ハ借賃、地代、小作料若ハ地役ノ對價ノ減額、拂戻若ハ增額ノ請求ハ第三十一條第四項ノ告示ノ日ヨリ三十日ヲ経過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 整理施行地又ハ之ニ存スル建物ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ第二十七條、第二十八條第三十一條第一項、第二項又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ拂渡スヘキ金錢アルトキハ整理施行者ハ其ノ金額ヲ供託スヘシ但シ關係人ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ整理施行地又ハ之ニ存スル建物カ訴訟ノ目的タリ又ハ整理施行地區ニ編入後訴訟ノ目的ト爲リタル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

先取特權者、質權者、抵當權者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル金錢ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者カ其ノ事業ノ爲借入レタル金額及其ノ利息其ノ他耕地整理ノ施行ニ依リ生シタル債務ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス但シ第二十九條第一項ノ場合ヲ除クノ外規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

帝室及國ハ前項ノ責ニ任セス

前項ニ於テ共同施行者ト稱スルハ帝室及國ヲ包含セス

第二十七條 整理施行者ハ耕地整理施行ノ爲必要アルトキハ整理施行地區

内ノ工作物又ハ木石等ヲ移轉シ、除却シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ依リ生シタル損害ハ之ヲ補償スヘシ

第二十八條 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合員ハ耕地整理施行ノ爲受ケタル損害ニ對シ第七條、第八條又ハ前條ノ場合ヲ除クノ外補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理施行ノ爲他人ニ加ヘタル損害ノ補償ニ付テハ共同施行者連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十六條 第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十條 整理施行地ニ付權利ヲ有スル者耕地整理施行ノ認可若ハ整理

施行地區變更ノ認可又ハ耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル後ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタルトキハ之ニ關スル損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

前項告示ノ後ニ於テ土地ニ付權利ヲ取得シタル者ハ從前ノ權利者ノ爲シ得ヘキ範圍内ニ於テノミ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第三十二條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 整理施行地ニ以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉ル場合ニ於テ

筆ノ土地ノ區域ハ二以上ノ市町村、大字又ハ字ニ涉リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十四條 數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テ既登記ノ土地ニ對スル換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第三十五條 本法中土地所有者ノ數ヲ計算スル場合ニ於テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス但シ共有者ノミ共同シテ耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ第五十一條、第五十二條、第五十四條下第六十條第

二項、第六十一條第二項、第七十條第二項又ハ第七十三條第二項中土地ノ面積又ハ地價ハ共有者ノ持分ニ依リ之ヲ定ム

第三十六條 住所又ハ居所ノ不分明其ノ他ノ事由ニ依リ耕地整理ニ關スル書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ整理施行者ト耕地整理組合ノ創立委員又ハ監督官廳カ公告ヲ爲ストキハ其ノ公告ノ日ヲ以テ書類ヲ發送シタルモノト看做シ二十日ヲ經過スルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付ヲ了リタルモノト看做ス

第三十七條 第三十一条第三項ノ認可ヲ受ケタルトキハ整理施行者ハ遲滯ナク既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ申請スヘシ

第三十八條 整理施行地區内ノ土地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第三十九條 共同施行又ハ耕地整理組合ニ依ル耕地整理ノ事業ニシテ郡、市町村又ハ水利組合ニ依リ施行スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ特別ノ事情アル場合ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ヲ郡、市町村若ハ水利組合ニ引繼キ又ハ耕地整理組合ヲ普通水利組合ニ變更スヘシ

前項ノ規定ニ依ル引繼又ハ變更アリタルトキハ地方長官ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第四十條 監督官廳ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ本法ノ規定ニ依ル職權ノ一部ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

**第四十一條** 本法申府縣、郡、市町村、郡長、市町村長、市役所又ハ町村役場トアルハ府縣制、郡制、市制、町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準ス

ヘキモノニ該當ス

## 第二章 耕地整理組合

### 第一款 總則

**第四十二條** 耕地整理ヲ施行スル爲必要アルトキハ耕地整理組合ヲ設立スルコトヲ得

耕地整理組合ハ法人トス

**第四十三條** 耕地整理組合ハ整理施行地ヲ以テ其ノ地區トス

**第四十四條** 左ニ掲タル土地ハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ第一號乃至第三號ノ土地ニ付テハ主務官廳又ハ公共團體ノ認許、第四號乃至第八號ノ土地ニ付テハ土地所有者、關係人及建物ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 御料地、國有地  
二 官ノ用ニ供スル土地

三 府縣、郡、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ノ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

四 名勝地、舊蹟地  
五 古墳墓地、墳墓地  
六 社寺境內地

七 鐵道用地、軌道用地  
八 建物アル宅地

**第四十五條** 特別ノ價値又ハ用途アル土地ハ土地所有者及關係人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ耕地整理組合ノ地區ニ編入スルコトヲ得ス但シ之ヲ編入スルニ非サレハ耕地整理ヲ適當ニ施行スルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地收用法第四十七條乃至第四十九條、第五十一條乃至第五十四條、第五十六條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ組合ノ設立又ハ地區變更ノ認可ノ告示ヲ以テ土地收用法第

十九條ノ規定ニ依ル公告又ハ通知ト看做ス

第一項但書ノ場合ニ於テ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ其ノ土地ニ付工事ノ施行ヲ拒ムコトヲ得但シ第九十二條第一項ノ規定ニ依リ決定ヲ得タル金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

### 第四十六條

耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ其ノ地區内ニ土地所有スル者ハ總テ之ヲ組合員トス但シ第十一條第一項ノ土地ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

### 第四十七條

耕地整理組合ノ名稱中ニハ耕地整理組合ナル文字ヲ用ウヘシ

**第四十八條** 耕地整理組合ニ非サルモノハ耕地整理組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

**第四十九條** 組合員又ハ組合員タルヘキ者ニシテ組合ノ地區又ハ第五十二條ニ依リ指定シタル地區所在ノ市町村若ハ其ノ鄰接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有セサル者又ハ土地ノ共有者ハ耕地整理ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲組合ノ地區又ハ第五十二條ニ依リ指定シタル地區所在ノ市町村若ハ其ノ鄰接市町村ニ住所若ハ居所ヲ有スル者又ハ共有者中ノ一人ヲ以テ代表者ト爲シ之ヲ組合又ハ創立委員ニ通知スヘシ

前項ノ代表者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

**第五十條** 第四十八條第一項ノ手續ヲ爲ササル土地共有者ニ對スル書類ノ送付ハ其ノ一人ニ對シ之ヲ發送シタル時ニ於テ完了シタルモノト看做ス

### 第二款 組合ノ設立及解散

**第五十一條** 耕地整理組合ヲ設立セムトスルトキハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者總數ノ三分ノ二以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總面積

及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ヲ得テ設計書及規約ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 地方長官ハ組合ノ地區タルヘキ區域内ノ土地所有者ノ總數ノ十分ノ一以上ニシテ其ノ區域内ノ土地ノ總地價ノ十分ノ一以上ニ當ル土地所有者ノ具申ニ依リ耕地整理組合ノ設立ヲ必要ト認ムルトキハ假ニ組合ノ地區ヲ指定シ創立委員ヲ命シ且其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十三條 創立委員ハ設計書案及規約案ヲ作リ組合員タルヘキ者ノ總會議ニ付スヘシ

第五十一條ノ規定ハ前項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第五十四條 前條ノ總會議ニ議事ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ニシテ且組合地區内ノ土地ノ總面積及總地價ノ各三分ノ二以上ニ當ル土地所有者ノ同意ニ依リ之ヲ決ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員タルヘキ者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第五十五條 設計書及規約ノ議決ヲ經タルトキハ創立委員ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五十六條 耕地整理組合ハ第五十一條又ハ前條ノ地方長官ノ認可ニ依リ成立ス

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ組合設立ノ旨ヲ告示スヘシ  
組合ハ前項ノ告示アル迄其ノ成立ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十七條 組合創立ニ關スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第五十八條 組合ハ左ノ事由ニ依リ解散ス但シ第二號ノ場合ニ於テ還了セ  
サル組合債アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 規約ニ定メタル事由ノ發生

二 目的タル事項ノ完成又ハ完成ノ不能

三 總會ノ議決

四 合併

五 事業ヲ郡、市町村又ハ水利組合ニ引續キタルトキ

六 普通水利組合ニ變更シタルトキ

七 組合員一人ト爲リタルトキ

八 監督官廳ノ處分  
前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ第三號又ハ第四號ニ該當スルトキヲ除クノ外其ノ旨ヲ告示スヘシ

第五十九條 組合ニ於テ設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ爲サムトスルトキハ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ組合債ヲ負擔スルトキハ債權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ組合ノ解散、合併、地區ノ減少又ハ債務分擔ニ關スル規約ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第六十條 組合ノ地區ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合ノ地區ニ編入セラルヘキ土地アルトキハ組合長ハ○設計書案及規約案ヲ作○編入區域ノ土地所有者ノ總會議ヲ開キ其ノ議決ヲ前條ノ總會ノ議決ニ添附スヘシ

前項ノ總會議ノ議決ヲ爲スニハ第五十條ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者ノ代理人ヲ許スコトヲ得

第五十三條及第五十四條ノ規定ハ前項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第六十六條ノ規定ハ第一項ノ總會議ニ之ヲ準用ス

第六十一條 前條ノ總會議ハ編入區域ノ土地所有者ノ同意ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十一條ノ規定ハ前項ノ同意ニ之ヲ準用ス

第六十二條 設計書若ハ規約ノ變更、組合ノ解散、合併、地區ノ變更又ハ事業ノ停止ハ第五十八條第二項又ハ第五十九條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十八條 第三號ノ規定ハ第五十八條第二項又ハ第五十九條第二項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十三條 組合ヲ合併シタルトキハ合併ニ依リ解散シタル組合ニ屬スル權利義務ハ合併後存續シ又ハ合併ニ依リ設立シタル組合ニ移轉ス

第六十四條 組合員一人ト爲リタル爲組合解散ノ場合ニ於テハ其ノ事業ハ一切ノ權利義務ト共ニ土地所有者ニ移轉ス

前項ノ土地所有者ハ之ヲ第三條ノ規定ニ依ル整理施行者ト看做ス

第六十五條 組合解散シタルトキハ第五十八條第一項第四號、第六號又ハ

第七號ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ  
組合ハ解散ノ後ト雖清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

### 第三款 組合ノ會議

**第六十一条** 別ニ規定アルモノノ外左ニ掲タル事項ハ總會ノ表決ヲ經ヘシ

第一 第三十一條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス事

二 組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ

之ヲ變更スル事

三 經費ノ收支豫算ヲ定ムル事

四 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拠棄ヲ爲ス事

五 組合長、組合副長若ハ評議員ヲ選任シ又ハ解任スル事

六 組合費、夫役現品ノ分賦收入ニ關スル事

七 事業報告書及收支決算書ヲ承認スル事

八 工作物又ハ設備ノ維持管理方法ヲ定ムル事

九 訴願、訴訟及和解ニ關スル事項

十 規約ニ定メタル事項

十一 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項

**第六十二条** 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ評議員會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第六十三条** 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ處分ヲ爲ス事

會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第六十四条** 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ處分ヲ爲ス事

會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第六十五条** 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ處分ヲ爲ス事

會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

**第六十六条** 總會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ處分ヲ爲ス事

會ニ委任シ又ハ組合長ヲシテ專決セシムルコトヲ得

評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

組合員總數ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ組合地區内ノ土地ノ總面積若ハ總地價ノ五分ノ一以上ニ當ル者ヨリ會議ノ目的及其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルトキハ組合長ハ十四日以内ニ之ヲ招集スヘシ

**第六十七条** 總會ヲ招集スルニハ會日ヨリ五日前ニ會議ノ日時、場所及目的ヲ記載シテ各組合員ニ通知ヲ發スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ於テハ期間ヲ二日迄短縮スルコトヲ得

**第六十八条** 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得

**第六十九条** 組合員ハ各一箇ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

**第七十条** 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

**第七十一条** 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

**第七十二条** 組合員ハ各一箇ノ表決權ヲ有ス但シ規約ヲ以テ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超過セサル範圍内ニ於テ一人ニ付二箇以上ノ表決權ヲ有セシムルコトヲ得

**第七十三条** 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外組合員ノ半數以上出席シ出席者ノ表決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

**第七十四条** 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得

**第七十五条** 第三十二條但書ノ規定ニ依リ第三十一條ノ處分ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ其ノ處分ヲ爲サムトスル土地ニ關スル組合員ノ總會議ヲ以テ總會ト看做ス

**第七十六条** 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織スル組合會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得

**第七十七条** 總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前二條ノ規定ニ依ル組合員ノ總會議又ハ組合會ニ之ヲ準用ス但シ組合會ニ於テハ組合ノ解散、合併又ハ地區ノ變更ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四款 組合ノ管理

第七十一条 組合ニ組合長一人及組合副長一人又ハ數人ヲ置ク  
組合長又ハ組合副長ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ特別ノ事情アルトキ  
ハ組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得

組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
○組合長、組合副長共ニ國員ト爲リタルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町  
○地方長官必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ組合長又ハ組合副長ヲ指定スル  
△臨時代理者ヲ

コトヲ得

地方長官前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ與ヘ又ハ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ  
旨ヲ告示スヘシ

○又ハ臨時代理者

組合長又ハ組合副長ノ就任若ハ解任ハ前項ノ告示アル迄之ヲ以テ他人  
ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十二条 組合長ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ管理ス

組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副  
長數人アルトキハ其ノ代理ノ順序ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第七十三条 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗  
スルコトヲ得ス

第七十四条 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗  
スルコトヲ得ス

評議員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス

評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ並業務及財產ノ狀況ヲ監査ス

組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ評議員ヲシテ組合ノ事務ノ一部ヲ分掌セ  
シムルコトヲ得

第七十五条 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ  
方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由  
アル場合ニ限リ二十年迄延期スルコトヲ得  
○又ハ臨時代理者

第八十六条 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ帝室及國

ヲ除クノ外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ耕地整理施行ノ  
爲他人ニ加ヘタル損害ノ補償ヲ除クノ外規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此  
ノ限ニ在ラス

第三章 監督

第八十七条 耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次ニ地方長官、第三次ニ主務  
大臣之ヲ監督ス但シ整理施行ノ區域都市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市内ニ止ル  
場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十八条 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行  
爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ム  
ルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ、評議員若  
ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合ノ解散ヲ命シ又ハ整理施行ノ  
認可ヲ取消スコトヲ得

第五款 組合ノ財務

第八十九条 組合ノ費用ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

夫役現品ノ分賦及之ニ代ルヘキ金額ニ關スル規定ハ規約中ニ之ヲ定ムヘ  
シ

第七十条 組合員ニシテ組合費又ハ第三十一條第一項、第二項ノ規定ニ  
依リ支拂フヘキ金錢ヲ滯納スルトキハ市町村ハ組合長ノ請求ニ依リ市町  
村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テ組合ハ其ノ徵收金額中百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘ  
シ

第一項ノ徵收金ハ組合地區内ノ土地ニ關シ市町村、水利組合其ノ他之ニ  
準スヘキモノノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有ス

前三項ノ規定ハ組合員カ夫役現品ニ代ルヘキ金錢ヲ滯納スル場合ニ之ヲ  
準用ス

第八十五条 組合ニ於テ負債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ  
方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ負債ハ起債ノ時ヨリ十五年以内ニ之ヲ還了スヘシ但シ特別ノ事由  
アル場合ニ限リ二十年迄延期スルコトヲ得

第八十六条 組合ニシテ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ帝室及國  
ヲ除クノ外組合員ハ之ニ付連帶無限ノ責任ヲ負擔ス但シ耕地整理施行ノ  
爲他人ニ加ヘタル損害ノ補償ヲ除クノ外規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此  
ノ限ニ在ラス

第三章 監督

第八十七条 耕地整理ハ第一次ニ郡長、第二次ニ地方長官、第三次ニ主務  
大臣之ヲ監督ス但シ整理施行ノ區域都市若ハ數郡ニ涉リ又ハ市内ニ止ル  
場合ニ於テハ第一次ニ地方長官、第二次ニ主務大臣之ヲ監督ス

第八十八条 主務大臣又ハ地方長官ニ於テ會議ノ表決又ハ整理施行者ノ行  
爲カ設計書、規約又ハ法令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アリト認ム  
ルトキハ會議ノ表決ヲ取消シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ、評議員若  
ハ組合會議員ノ改選、事業ノ停止若ハ組合ノ解散ヲ命シ又ハ整理施行ノ  
認可ヲ取消スコトヲ得

サシメ、書類、帳簿、出納又ハ工事ヲ検査シ、設計書又ハ規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

**第九十條** **八十五** 監督官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル認可申請ニ對シ申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトヲ得

**第九十一條** **八十六** 第三條ノ規定ニ依ル耕地整理ノ施行若ハ整理施行地區ノ變更ニ異議アル關係人、第四十四<sup>(三)</sup>條若ハ第四十五<sup>(四)</sup>條ノ規定ニ違反シテ耕地整理組合ノ地區ニ編入シタル土地ノ所有者若ハ關係人又ハ第三條第二項但書若ハ第五十九條第一項但書ノ規定ニ依リ異議アル債權者ハ各耕地整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可ノ告示、耕地整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示又ハ第三條第四項若ハ第五十九條第二項ノ規定ニ依リ當該事項ノ告示アリタル日ヨリ三十日以内ニ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ訴願アリタル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ裁決アル迄目的タル土地ニ付耕地整理ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

**第九十二條** **八十七** 第四十五條第二項ノ規定ニ依ル補償金ニ付協議調ハサルカ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第九十三條** **八十八** 總會議、總會又ハ組合會ノ招集手續又ハ表決カ違法ナル場合ニ於テ之ニ對シ不服アル者ハ其ノ表決ノ日ヨリ十四日以内ニ地方長官ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項異議ノ申立アリタル場合ニ於テ監督官廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ表決又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

**第九十四條** **八十九** **八十九** 監督官廳ノ處分ニシテ本法中他ノ條項ニ於テ地方長官ノ告示ヲ必要トスル事項ニ相當スルモノニ付テハ地方長官ハ之ヲ告示スヘシ

整理施行者ハ前項ノ告示アル迄其ノ受ケタル處分ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ監督官廳ノ命令シタル停止處分ノ解除ニ之ヲ準用ス

#### 第九十五條 第四章 訴則

**第九十六條** **九十一** 第三條ノ規定ニ依ル整理施行者又ハ耕地整理組合ノ組合長若ハ組合副長本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

#### 附則

**第九十七條** **九十二** 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十年法律第三十九號ハ之ヲ廢止ス但シ現ニ土地ノ區劃形狀變更ノ許可ヲ得タル者ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

**第九十八條** **九十四** **九十四** 本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ付テハ以下數條ニ規定スルモノヲ除クノ外舊法ノ規定ヲ適用ス

**第九十九條** **九十五** 本法第一條、第二條、第四條、第五條、第八條、第十條、第十七條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十四<sup>(三)</sup>條、第三十五<sup>(五)</sup>條乃至第四十一條、第八十七<sup>(二)</sup>條、第八十九<sup>(四)</sup>條及第九十<sup>(八十五)</sup>條ノ規定ハ本法施行前耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニ之ヲ適用ス

**第一百條** **九十六** 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ得タル者ハ發起人又ハ整理委員ノ申請ニ依リ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法ニ依ル耕地整理組合ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲シタルトキハ耕地整理ニ關スル從前ノ設計書又ハ規約ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ反セサル範圍内ニ於テ本法ノ規定ニ依ル設計書又ハ規約ト看做ス

第一項ノ規定ニ依ル耕地整理組合ハ耕地整理ニ關スル參加土地所有者共同ノ權利義務ヲ承繼ス

第一百一十九條 本法施行前耕地整理發起ノ認可ヲ申請シ未タ之ヲ得ルニ至ラサル者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ本法第五十一條ノ規定ニ依ル耕地整理組合設立ノ申請ト爲スコトヲ得

第一百二十條 舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ爲シタル處分ニ對スル訴願ニ關シテハ各舊法又ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依ル

〔國務大臣男爵大浦兼武君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵大浦兼武君) 唯今問題ニ上ボリマシタ所ノ耕地整理法ニ付キマシテ大體説明ヲ致シマス、現行ノ耕地整理法ハ第十三議會ノ御協賛ヲ經マシテ、明治三十三年一月ヨリ施行シタルモノデゴザイマス、施行以來約十箇年ヲ経過イタシマシテ、而シテ此間ニ於テ整理ノ事業實施ニ著ケルモノガ三府四十六縣ニ亘リマシテ二千百二十四箇所デゴザイマス、其段別ハ十二万五千町歩ニ達シテ居リマシテ、其實施ノ面積ハ固ヨリ尙ホ今日大ニ稱スルト云フ譯ニハ參リマセヌケレドモガ、御承知ノ通リ此事業ト云フモノハ誠ニ幾多ノ障害モゴザイマシテ、ナカニ其費用ヲ要スルコトモ多大ナモノデゴザイマス、斯ウ云フ有様デゴザイマシタ所ガ今日ノ現況ニ於テハ寧ロ良好ナ結果デアルト申シテモ宜カラウト存ジマス、最近ノ調査ニ依リマスレバ今後耕地整理ヲ施行スペキモノ少ナカラスト考ヘテ居リマス、凡ソ是等ノ土地ニ整理ヲ施ス、加之我國ニハ尙ホ開クベキノ土地ト云フモノハ頗ル多イノデゴザイマシテ、又畑地ヲ田地ニ變ズルモノモ多ウゴザイマス、依ツテ之ヲ以テ生産力ヲ増進スベキモノ考ヘテ居リマス、凡ソ是等ノ土地ニ整理ヲ施行イタシマシテ農業ノ……謂ハユル農產ノ增進ヲ圖ルト云フコトハ目下誠ニ緊要ナルコト、存ジマス、故ニ此度耕地整理ノ方法ヲ改正シテ成ルベク便利ニ敏捷ニ耕地整理ノ目的ヲ達スルヤウニ改正ヲ致スノガ大體デゴザイマス、尙ホ其方針ニ依ツテ進行イタシタイト存ジマスカラシテ御協賛ヲ仰ギタイト存ジマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御質問モゴザイマセネバ次ニ移リマス

○伯爵吉井幸藏君 本員ハ家祿賞典祿處分法案ノ特別委員會ヲ開キタイト思ヒマスガ、退席イタシテ宜シウゴザイマスカ

○副議長(侯爵黒田長成君) 吉井伯爵ノ委員會へ退席ノ要求ハ許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ガ無イト認メマスカラ宣シウゴザイマス  
○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第二ヨリ第五マデノ法案ハ何レモ關聯シタ案デアリマスルカラ、一括シテ議題ニ供シテ御異議ハゴザイマセヌカ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ガ無イト認メマス  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 第二、特許法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第三、意匠法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第四、商標法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第五、實用新案法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、議案ノ朗讀ハ何レモ省略イタシテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ハ無イト認メマス

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經サルモノ参照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

特許法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十六日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

〔小字ハ衆議院ノ修正  
ハ同削除ノ符號〕

特許法

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付本法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

第二條 自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付改良又ハ擴張ヲ爲シタ

ル者ハ其ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付追加特許ヲ受クルコトヲ得自己ノ特許發明又ハ特許出願中ノ發明ニ付他人ノ爲シタル改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テ特許出願中ノ發明カ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタルトキハ追加特許ノ出願ハ之ヲ獨立ノ特許出願ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ獨立ノ特許出願ハ追加特許出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三條 職務上又ハ契約上爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル發明ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル發明ニ付發明前豫メ特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無效トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ナ謂ア

第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一 特許出願前帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ

二 特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

第五條 發明カ左ノ各號ノ一二該當スルモ之ヲ新規ナルモノト看做ス

一 發明カ試驗ノ爲前條各號ノ一二該當スルニ至リタル時ヨリ二年以内ニ特許ヲ出願シタルトキ

二 同一發明ニ關スル特許出願中若ハ實用新案登錄出願中又ハ其ノ特許權若ハ實用新案權ノ存續中其ノ發明カ前條各號ノ一二該當スルニ至リタルトキ

第六條 左ニ掲タル發明ニ付テハ之ヲ特許セス

一 飲食物、嗜好物

二 醫藥、其ノ調合法

三 秩序若ハ風俗ヲ棄リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ  
第七條 特許出願カ二以上ノ發明ヲ包含スルトキハ之ヲ分割スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ最初出願ノ時ニ於テ各出願ヲ爲シタルモノト看做ストヲ得ス

第八條 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品スル發明ニ付其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ特許ヲ出願シタルトキハ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ノ出品ニ付豫メ届出ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シ之ヲ適用セス

第一項ノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 同一發明ニ付各別ニ特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ發明ヲ爲シタル者ニ限り特許ス其ノ同時ノ發明ニ係ルトキ又ハ發明ノ前後不明ナルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタル者ニ限り特許ス但シ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ特許セス

特許權發生後二年ヲ經過シタルトキハ最先ニ與ヘタル特許ニ限り有效トス

第十條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

特許ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ○對抗スルコトヲ得ス(第三者ニ)

第十一條 特許出願ノ發明カ公益ノ爲普及ヲ要スルモノナルトキ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ祕密ヲ要スルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス又ハ制限ヲ付シテ特許ヲ與フルコトヲ得

發明カ軍事上必要ナルモノ又ハ祕密ヲ要スルモノナルトキハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ハ政府ニ於テ之ヲ收用スルコトヲ得

第十二條 帝國內ニ在ラサル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ特許ニ關スル出願

請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ因ル手續並特許ニ關スル民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

第十三條 前條第二項ノ特許權者又ハ特許權ニ關シ登錄シタル權利ヲ有スル者ノ代理人ノ選任若ハ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ニ該當スルモノヲ除クノ外特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ノ變更又ハ其ノ代理權ノ變更若ハ消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十四條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十五條 特許局長ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得  
特許局長又ハ審判長ニ於テ當事者又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ特許辦理士ヲ以テ代理セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

前二項ノ命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ第二項ノ當事者若ハ代理人ノ特許局ニ對シテ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第十六條 特許局ニ對シテ爲スヘキ事項ノ代理業ハ特許辦理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許辦理士ノ資格、登錄、監督、懲戒等ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第二項ノ規定ハ前項但書ノ代表者ニ之ヲ準用ス  
人ノ住所又ハ居所、其ノ代理人ナキモノニ在リテハ特許局ノ所在地ヲ以

テ民事訴訟法第十七條ノ財產所在地ト看做ス

第十九條 特許局長ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ住居スル者ノ爲職權ヲ以テ又ハ請求ニ依リ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十條 特許ニ關シ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者ニシテ法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ特許局長又ハ審判長宥恕スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル後十四日以内ニ限り請求ニ依リ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ期間満了後一年ヲ経過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ノ效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ權利義務ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ト共ニ移轉ス

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續ハ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シ其ノ效力ヲ有ス

第二十三條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ承繼人ニ對シテ手續ヲ續行スルコトヲ得

第二十四條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中斷、中止及續行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 特許ニ關スル證明、特許證ノ複本、書類ノ謄本、圖面ノ調製ハ書類ノ閱覽若ハ謄寫ヲ要スル者ハ其事由ヲ疏明シ特許局長ニ之ヲ請求スルコトヲ得但シ特許局長ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノハ之ヲ許可セス

第二十六條 軍事上祕密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ

享有スルコトヲ得ス

特許ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

## 第二章 特許権

第二十八條 特許権ハ登録ニ依リ發生ス

特許権者ハ物ノ特許發明ニ在リテハ其ノ發明ニ係ル物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ特許發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其ノ方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

新規ナル同一ノ物ハ同一ノ方法ニ依リテ製作シタルモノト推定ス

同一發明ニ關シテハ特許権ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案権ニ依リ

制限ヲ受クルモノトス

第二十九條 特許権ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ應用

二 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國內ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特許發明ノ實施

三 單ニ帝國內ヲ通過スル運輸具及其ノ裝置

四 特許出願ノ際ヨリ帝國內ニ在ル物及第一號又ハ第二號ニ依リ製作シタル物

第三十條 特許権ノ存續期間ハ十五年トス但シ特許権カ分割セラレ又ハ追加特許権カ獨立ノ特許権ト爲リタルトキハ其ノ存續期間ハ原特許権發生ノ翌日ヨリ起算ス

前項ノ期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下之ヲ延長スルコトヲ得

第三十一條 冒認シタル他人ノ發明ニ付受ケタル特許権ヲ無効トシ正當権利者ニ特許ヲ與ヘタルトキハ其ノ特許権ハ無効ト爲リタル特許権發生ノ日ニ於テ發生シタルモノト看做ス

第三十二條 特許権ハ制限ヲ付シ又ハ付セヌシテ之ヲ移轉スルコトヲ得第三十三條 特許権ノ移轉、拋棄ニ依ル消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許権ヲ目的トル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十四條 追加特許権ハ原特許権ニ附隨スルモノトス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ特許發明ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 特許カ第四十八條ノ規定ニ依リ無効ト爲リタル場合又ハ同一發明ニ原特許権者

二 前號ノ原特許權ニ付善意ニ使用又ハ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

第三十六條 前條ノ權利ハ特許發明實施ノ事業ト共ニスル場合ニ限り移轉スルモノトス

第三十三條ノ規定ハ前條ノ權利ニ之ヲ準用ス

第三十七條 第三十五條ノ權利ハ其ノ發生後一年以内ニ登録ヲ受クルニ非サレハ消滅ス

第三十八條 特許發明カ他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ使用スルニ非サレハ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ特許権者又ハ實用新案権者正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ特許發明ノ使用ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ使用セラルヘキ發明ノ特許権發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ使用セラル者其ノ使用ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付使用ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ相手方カ正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

○第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明ヲ使用スル者ハ特許権者、實用新案権者其ノ他特許権又ハ實用新案権ニ關シ登録シタル權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

第三十九條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ使用セムトスル者ハ補償金ノ支拂又ハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス但シ審決又ハ判決確定前ト雖其ノ審決又ハ判決ニ依ル補償金ヲ供託シタルトキハ其ノ使用ヲ爲スコトヲ得

第四十條 特許権者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

前項ノ實施許諾ヲ得タル者ハ特許権者ノ承諾アルニ非サレハ其ノ實施權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ發明實施ノ事業ト共ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條 特許發明ニ付使用ノ許諾、審決、判決又ハ實施許諾ヲ得タル者ニシテ其ノ登録ヲ受クルトキハ其ノ使用權又ハ實施權ハ爾後其ノ特許權ヲ取得シタル者又ハ其ノ特許權ノ目的トシテ設定シタル質權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十二條 特許権者特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ特許權改訂ノ許可ヲ受クルコトヲ得

特許権者特許發明ヲ分割シテ二以上ノ特許權ト爲サムトスルトキハ特許權分割ノ許可ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ各部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ニ於テハ改訂又ハ分割前ノ發明ノ要部ヲ變更スルコトヲ得ス

特許權ノ改訂及分割ハ登録ニ依リ其ノ效力ヲ生ス

第四十三條 特許權ハ其ノ制限付讓渡ヲ受ケタル者、實施許諾ヲ得タル者又ハ質權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ之ヲ改訂シ又ハ拋棄スルコトヲ得ス  
第四十四條 軍事上祕密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナル場合ニ於テハ特許權ハ之ヲ制限シ又ハ政府ニ於テ之ヲ收用シ、特許ハ之ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ其ノ發明ヲ實施スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ特許發明ヲ使用若ハ實施スルノ權利ヲ有スル者ニ支給ス  
第四十五條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ使用若ハ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金錢以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲ス  
ヘシ

第四十六條 特許權ノ收回アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第四十七條 正當ノ理由ナクシテ特許權發生後三年以上其ノ發明ヲ帝國內ニ於テ適當ニ實施セス又ハ三年以上其ノ實施ヲ中止シタル場合ニ於テハ

特許局長ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第四十八條 権利確認ノ査定若ハ之ニ對スル審決確定シ又ハ判決アリタル爲出願カ特許又ハ許可スヘキモノト決定シタルトキハ其ノ抵觸スル發明ニ係ル特許ハ之ヲ無効トス

第四十九條 特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可カ左ノ各號ノ一二該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第六條、第九條、第十條第二項又ハ第二十七條ノ規定ニ反シタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シテ興ヘラレタルトキ  
三 特許權ノ分割シタル部分カ特許出願ノ當時獨立シテ新規ノ發明ヲ爲ササルトキ又ハ特許權ノ改訂若ハ分割カ第四十二條第三項ノ規定ニ反シタルトキ

四 發明ノ明細書ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セス又ハ其ノ

實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲必要ナラサル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ  
特許又ハ許可ハ特許權消滅後ト雖之ヲ無効ト爲スコトヲ妨ヶス  
第五十條 特許無效ト爲リタルトキハ特許權ハ初メヨリ存在セサルモノト看做ス

特許ノ取消アリタルトキハ特許權ハ以後其ノ效力ヲ失フ

第五十一條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第五十二條 特許カ取消サレ若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ拋棄ニ依リ消滅シタル場合ニ於テ追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加特許權アルトキハ其ノ追加特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ノ追加特許權ト爲ル  
前二項ノ場合ニ於テハ六十日以内ニ變更ノ登録ヲ受クルニ非サレハ第一項ノ特許權又ハ前項ノ追加特許權ハ消滅ス

第五十三條 登錄、特許證、公報、特許標記及特許料  
第三章 登錄、特許證、公報、特許標記及特許料  
定、變更、移轉、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 特許スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ下付ス特許權ノ改訂又ハ分割ヲ許可スヘシトノ查定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第五十五條 特許局ハ特許發明ノ明細書及特許公報ヲ發行シ特許發明及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ祕密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 特許權者又ハ特許發明ニ付實施ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ特許ニ係ル物ニ特許標記ヲ付スヘシ物ノ性質ニ依リ之ヲ付スルコト能ハサルトキハ其ノ容器、包裝等ニ之ヲ付スヘシ

特許權者ハ特許發明ニ付使用若ハ實施ノ權利ヲ有スル者又ハ第二十九條第一號若ハ第二號ノ應用若ハ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ付ス。○ルコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタル爲特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ一部ヲ分離シテ販賣又ハ擴布スル場合ニ於テ其ノ分離シテ販賣又ハ擴布スル物ニ之ヲ準用ス

第五十七條 特許權ノ登録ヲ受クル者及特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

|              |            |       |
|--------------|------------|-------|
| 第一年乃至第三年分    | 登録ヲ受クルトキ一時 | 金二十圓  |
| 二 第四年乃至第六年   | 每 年        | 金十圓   |
| 三 第七年乃至第九年   | 每 年        | 金十五圓  |
| 四 第十年乃至第十二年  | 每 年        | 金二十圓  |
| 五 第十三年乃至第十五年 | 每 年        | 金二十五圓 |

特許權存續期間延長ノ登録ヲ受クル者及其ノ特許證主ハ特許料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ  
第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金百五十圓  
二 第四年乃至第六年 每 年 金七十圓  
三 第七年乃至第十年 每 年  
追加特許權ノ登録ヲ受クル者ハ追加特許料トシテ登録ヲ受クルトキ毎件一時金十五圓ヲ納付スヘシ

特許權存續期間延長ノ場合ニ於テ追加特許權アルトキハ第二項第一號ノ特許料ニ毎件金三十圓ヲ加フ

前四項ノ規定ハ國ニ屬スル特許權ニ付之ヲ適用セス

第五十八條 每年ノ特許料ハ其ノ翌年分ヲ前納スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者カ發明者又ハ其ノ相續人ニシテ之ヲ納付スルノ資力ナシト認ムル場合ニ於テハ前條第一項第一號ノ特許料又ハ追加特許料ハ二年以内其ノ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條 利害關係人ハ特許料又ハ追加特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ之ヲ納付スルコトヲ得

第六十條 既納ノ特許料及追加特許料ハ之ヲ還付セス

第六十一條 特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ特許ヲ取消スコトヲ得追加特許料ノ納付ヲ怠リタルトキ其ノ追加特許ニ付亦同シ

#### 第四章 審査及再審査

第六十二條 特許ノ出願又ハ特許權ノ改訂若ハ分割許可ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム  
前項ノ査定ハ第六十三條ノ場合ヲ除クノ外特許スヘキヤ否又ハ許可スヘキヤ否ヲ決定ス

第六十三條 審査官ハ出願ニ係ル發明カ他人ノ出願ニ係ル發明又ハ特許發明ト抵觸スト認メタル場合ニ於テハ發明抵觸ノ査定ヲ爲スヘシ但シ特許權ハ許可ヲ拒絶スヘキ他ノ理由アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 發明抵觸ノ査定確定シ又ハ審決アリタルトキハ審査官ヲシテ出願者ノ權利確認ノ査定ヲ爲サシム  
前項ノ場合ニ於テ特許局長ハ出願者又ハ特許權者ヲシテ權利ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ  
前項始末書ノ差出アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ相手方ニ送達シ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第七十一條 第二項及第七十六條ノ規定ハ權利確認ノ査定ニ之ヲ準用ス  
權利確認ノ査定ニ於テハ出願者カ特許權ハ許可ヲ受クヘキ正當權利者ナリヤ否ヲ決定シ其ノ出願ニ對スル許否ヲ表示スヘシ  
第六十五條 第六十二條第二項ノ査定又ハ發明抵觸ノ査定ニ不服アル者ハ

査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ

請求スルコトヲ得

再審査ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ

査定セシム

第六十六條 査定ニハ理由ヲ付スヘシ

第六十七條 審査又ハ再審査ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ職權ヲ以テ又ハ

當事者ノ申立ニ依リ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ニ關シテハ民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ヲ準用ス但シ特許局

ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ  
得ス

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ

行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

第六十八條 本法ニ規定スルモノノ外審査又ハ再審査ニ關スル書類ニシテ

送達スヘキモノ及送達ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 審判、抗告審判及出訴

第六十九條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外

左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第四十九條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無效

二 特許權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官

ハ前項第二號ノ審判及第三條、第九條又ハ第十條第二項ノ規定ニ反スト

ノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第七十一條 審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ

期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシメ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ

副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ差出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ差

出サシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ差出サシムル  
コトヲ得

第七十二條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ

合議ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判官ハ各審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第七十三條 審判官ハ各審判事件ニ付之ヲ指定ス

審判官中審判ニ干與スルニ故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他

ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第七十四條 審判官ハ左ノ場合ニ於テ審判ニ干與スルコトヲ得ス

一 當事者カ自己又ハ親族ナルトキ

二 當事者ノ法定代理人若ハ保佐人タルトキ又ハ法定代理人若ハ保佐人

タリシトキ

三 其ノ事件ニ付當事者ノ代理人タルトキ又ハ代理人タリシトキ

四 其ノ事件ニ付利害關係ヲ有スルトキ

五 其ノ事件ニ付審査官トシテ審査ニ干與シタルトキ

第七十五條 審判長ハ職權ヲ以テ又ハ當事者ノ申立ニ依リ口頭審理ヲ爲ス

コトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スル虞アルトキハ此ノ限  
ニ在ラス

第七十六條 請求人又ハ被請求人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス  
又ハ期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第七十七條 審判ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ其ノ審判ノ終結スル迄

請求人又ハ被請求人ノ一方ヲ補助スル爲其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

參加人ハ其ノ參加ノ時ニ於ケル審判ノ程度ヲ妨ケサル限り審判ニ關スル

總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ補助スル當事者ノ行爲ト抵觸スルモ

ノハ其ノ效力ヲ有セス

第七十八條 參加ヲ爲サムトスル者ハ參加請求書ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

當事者ハ參加ニ付指定ノ期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

參加ノ許否ハ決定ヲ以テ之ヲ審判ス

第七十九條 審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終結

審決ニハ理由ヲ付スヘシ

第八十條 第三十八條ノ規定ニ依ル審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第八十一條 審判ノ審決、権利確認ノ査定又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ審決ニ依ル補償金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 第七十條乃至第七十九條ノ規定ハ抗告審判ニ之ヲ準用ス但シ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依ル

審判ニ干與シタル審判官ハ同一事件ニ付抗告審判ニ干與スルコトヲ得ス

第八十三條 抗告審判ニ於テハ自ラ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スヘシ

再審査ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ單ニ其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審查ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其

ノ事件ニ付テハ審判官ヲ羈束ス

發明抵觸ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ抵觸ナシト認メタルトキハ出願ニ對シ特許又ハ許可スヘキコトヲモ併セテ審決スヘシ

第八十四條 第六十七條及第六十八條ノ規定ハ審判及抗告審判ニ之ヲ準用ス

第八十五條 抗告審判ノ審決ニ不服アル者ハ其ノ審判力法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得但シ再審査ノ査定ニ對スル審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ出訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ羈束ス

第八十六條 本法ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額ノ通知又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十七條 特許ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登録アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第八十八條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付特許權ノ效力又ハ範圍ニ關シ査定、審決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中

止スルコトヲ得

第八十九條 審判及抗告審判ニ關スル費用ノ負擔ハ本案ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 前條ノ費用ノ負擔及費用額ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 審判、抗告審判及出訴ノ費用額ハ請求ニ依リ特許局長之ヲ決定ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

## 第六章 訴則

第九十二條 他人ノ特許權ヲ侵害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下の罰金ニ處ス

他人ノ特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

第九十三條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下の罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者  
二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ容器、包裝等ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物ヲ販賣若ハ擴布スル爲又ハ特許ニ係ラサル方法ヲ使用セシムル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物若ハ方法カ特許ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第九十四條 第九十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第九十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ嘱託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十六條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 特許<sup>辨理士ニ非シテ</sup>特許ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第七章 附則

第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十九條 從前ノ規定ニ依ル特許ハ本法ニ依リ受ケタルモノト看做ス

第一百條 本法施行前ニ發生シタル特許權ニ關シテハ第九條第二項ノ規定

ハ本法施行ノ日ヨリ一年間之ヲ適用セス

第一百一條 本法施行ノ際現ニ特許代理業者タル者ハ特許<sup>辨理士トス</sup>

第一百二條 第三十五條ノ規定ハ本法施行前無效ト爲リタル特許ニ關シテハ

之ヲ適用セス

第一百三條 第二項ノ規定ハ本法施行前發生シタル實施權ニ關シテハ之ヲ適

用セス

第一百四條 第二項ノ規定ハ本法施行前無效ト爲リタル特許料ニ付テハ

舊法第十六條又ハ第十七條ノ報酬額ニ不服アル者ハ本法施行後六十日以内ニ限り通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一百五條 本法施行前受ケタル特許ニ關スル第三年分迄ノ特許料ニ付テハ

舊法ノ規定ニ依ル

前項ノ特許料ヲ除クノ外本法施行前二年分以上前納シタル特許料ニ付テ

ハ其ノ未タ納期ニ至ラサルモノニ限り本法ニ依リ納付スヘキ特許料ニ比

シテ殘餘アルトキハ順次之ヲ後年分ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ還付

本法施行前前納ニ係ル特許料ニ付テハ舊法第四十條第二項但書ノ規定ハ

仍其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ニ依リ還付ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後一年以内ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第一百六條 舊法ニ依リ利害關係人以外ノ者ノ爲シタル審判ノ請求ハ本法施行ノ爲其ノ效力ヲ失フコトナシ

第一百六條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル審判ニシテ其ノ事件カ本法ノ抗告審

判事件ニ該當スルモノナルトキハ抗告審判ヲ以テ之ヲ處理スヘシ  
本法施行前ノ審決ニシテ其ノ事件カ本法ノ抗告審判事件ニ該當スルモノナルトキハ出訴ニ關シテハ之ヲ抗告審判ノ審決ト看做ス

## 意匠法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正  
ハ同削除ノ符號〕

## 意匠法

第一條 物品ニ應用スヘキ形狀、模様、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ナル工業的意匠ヲ案出シタル者ハ本法ニ依リ意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル意匠ニ付登録ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル意匠ニ付案出前豫メ登録ヲ受クルノ權利又ハ意匠權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ  
一 登錄出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

同一物品ニ應用スヘキ意匠ニシテ自己ノ登錄意匠ノミニ類似スルモノハ新規ト看做ス

第四條 左ニ掲クル意匠ニ付テハ之ヲ登錄セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ  
二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第五條 同一物品ニ應用スヘキ同一又ハ類似ノ意匠ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限リ登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 意匠ノ登録ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ○對抗スルコトヲ得ス

第七條 實用新案ノ登録ノ出願ヲ爲シ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ實用新案ニ係ル意匠ニ付登録ヲ出願シタルトキハ實用新案ノ登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス

意匠權者ハ登録出願ノ際指定シタル物品ニ付業トシテ其ノ意匠ヲ應用シ又ハ之ヲ應用シタル物品ヲ販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

同一物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ニ付テハ其ノ内ノ一ハ前項ノ意匠權ト合體スルモノトス

同一又ハ類似ノ意匠ニ關シテハ意匠權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第九條 意匠權ノ存續期間八十年トス

第十條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録意匠ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スルニ以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原意匠權者

二 前號ノ原意匠權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者  
特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 意匠權ハ其意匠ヲ應用スル物品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十二條 意匠ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十三條 登録スヘシト査定アリタルトキハ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者又ハ意匠登録證主ハ意匠料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年分 登録ヲ受クルトキ一時 金三圓  
二 第四年乃至第十年 每年 金二圓

同一物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ニ付テハ其ノ内ノ一ハ前項ノ意匠料ヲ、其ノ他ハ各意匠ニ付一時金一圓ヲ納付スヘシ

第十五條 意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ各意匠ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第十六條 意匠登録ノ出願ヲ爲ス者ハ出願中及登録後三年以内其ノ意匠ヲ祕密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第十七條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審查官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十八條 審查官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十三條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル意匠カ登録スヘキモノナリヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十九條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第二十條 審判ハ左ニ掲タル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十二條ノ規定ニ依ル登録ノ無效

## 二 意匠権ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

審査官ノ請求ニ依ル審決ニ不服アル者ハ審決ヲ省略スルコトヲ得  
第二十一條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十五條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十

條、第四十一條、第四十三條、第四十五條、第四十九條第二項、第五十

條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十

九條乃至第六十一條、第六十六條乃至六十八條、第七十條乃至第七十九

條、第八十二條、第八十三條第一項、第八十四條、第八十五條及第八十

七條乃至第九十一條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

第二十三條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外意匠権又ハ意匠ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

意匠ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十四條 他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ業トシテ同一ノ物品ニ應用シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ三年以

下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録意匠ト同一若ハ類似ノ意匠ヲ應用シタル同一物品ヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣若ハ擴布シタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下

ノ罰金ニ處ス

一 登錄意匠ヲ應用セサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ意匠登録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣若ハ

三 登錄意匠ヲ應用セサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品カ登錄意匠ヲ應用シタルモノナルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十六條 第二十四條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 法律ニヨリ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ嘱託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 特許辯理士ニ非シテ意匠ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無效ト爲リタル意匠ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

### 商標法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十六日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 長谷場 純孝

## 商標法

〔小字ハ衆議院ノ修正  
ニ付削除ノ符號〕

第一條 自己ノ生產、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係

ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ専用セムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル商標ニ付テハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 秩序若ハ風俗ヲ素リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

四 同一商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

五 世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノ

六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジエネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ外國ニ於ケル官設ノ博覽會若ハ官許ノ萬國博覽會ノ賞牌、賞狀若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ之ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八 他人ノ肖像、氏名、商號又ハ法人若ハ組合ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

九 登録失效後一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失效前一年以上使用セサリシ商標ト同一又ハ類似ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ其ニ之ヲ登録セス

同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ互ニ相類似スルモノハ聯合商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

ヲ得

第四條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ移轉スルモノトス

コトヲ得

前項ノ權利ノ承繼ハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ○對抗スルコトヲ得ス

第五條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス

商標權者ハ登録出願ノ際指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ専用スルノ權利ヲ有ス

第六條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラル方法ヲ以テ自己ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ表示シ又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ同一ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 商標權ノ存續期間ハ二十年トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得ス

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノハ其ノ本國ニ於ケル商標權ト共ニ消滅ス但シ其ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

コトヲ得

第八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り移轉スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ商標權ハ其ノ商標ヲ使用スル商品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

聯合商標ノ商標權ハ分離シテ移轉スルコトヲ得ス

第九條 左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スコトヲ得

一 商標權者其ノ登録商標ニ世人ヲ欺瞞スヘキ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキ

二 商標権者正當ノ事故ナクシテ帝國內ニ於テ登録後其ノ商標ヲ使用セシテ一年ヲ経過シ又ハ其ノ使用ヲ中止シテ三年ヲ経過シタルトキ

但シ聯合商標ニ付テハ其ノ一ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
三 商標権ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外一  
年以内ニ商標権移轉ノ登録ヲ請求セサルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ

適用セス  
第一項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十條 商標権者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標権ハ消滅スルモノトス  
第十一條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録カ第一條乃至第三條、第四  
條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無效ト  
爲スヘシ

第十二條 登録スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登  
録シ商標登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ登録商標及之ニ關スル必要ナル事項  
ヲ記載スヘシ

第十四條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受  
タル際每件商標料金二十圓ヲ聯合商標ニ在リテハ每件金十圓ヲ納付スヘ  
シ

第十五條 商標ノ登録ヲ出願スル者ハ各商標ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於  
テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第十六條 商標又ハ商標権存續期間更新ノ登録ノ出願アリタルトキハ審查  
官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十七條 登録スヘカラストノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル  
日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ更ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査  
定セシム

第十八條 審判ハ左ニ掲タル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効

二 商標権ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官  
ハ前項第二號ノ審判及第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二  
項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス  
登録商標カ第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ  
反シタル場合ニ於テ商標公報ニ掲載シタル日ヨリ三年ヲ経過シタルトキ  
ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第十九條 審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送  
達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ニ使用スル標章ヲ専用セム  
トスルトキハ本法ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ得

第二十一條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十  
七條乃至第二十五條、第二十九條下第三十三條、第四十九條第二項、第五  
十條、第五十三條、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第  
七十九條、第八十二條、第八十三條第一項第二項、第八十四條、第八十五條  
及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第二十二條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又  
ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外商標権又ハ之ニ關スル權利ヲ享  
有スルコトヲ得ス

第二十三條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ  
罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用シ  
タル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ  
所持スル者

二 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用セ  
シムルノ目的ヲ以テ交付、販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ  
所持スル者  
三 同一商品ニ使用シ又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ他人ノ登録商標ヲ  
偽造又ハ模造シタル者

四 同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造若ハ模造ノ商標ヲ交付、販賣シ又ハ之ヲ同一商品ニ使用シタル者

五 偽造若ハ模造ノ商標ヲ使用シタル同一商品ヲ交付、販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

六 他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ輸入シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付若ハ所持スル者

七 他人ノ登錄商標ヲ偽造又ハ模造スル爲其ノ用具ヲ製作、交付、販賣若ハ所持スル者

八 同一商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用キル廣告、看板、引札、物價表又ハ其ノ他ノ取引書類ニ使用シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十四條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下の罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者

二 登錄ヲ受ケタル商標ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シ之ヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若

ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 登錄ヲ受ケヌシテ登錄標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者

第二十五條 第二十三條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十七條 證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナク

シテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 特許<sup>辨理士ニ非スシテ</sup>商標ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法ニ依リ登錄ヲ受ケタル商標ニ付テハ其ノ存續期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セス第九條ニ定ムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

特許法第九十九條、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

### 實用新案法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正  
ハ同削除ノ符號〕

### 實用新案法

第一條 物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ依リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登錄ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス

職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノニ非サル實用新案ニ付案出前豫メ登錄ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無效トス

本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ナ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ

公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 左ニ掲タル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セス

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ

二 秩序若ハ風俗ヲ素リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第五條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日

ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受クルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ○對抗スルコトヲ得ス

第七條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ

其ノ發明又ハ意匠ニ係ル實用新案ニ付登録ヲ出願シタルトキハ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

第九條 實用新案權ノ存續期間ハ三年トス

前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一一該當スル者ハ原權利ノ範圍内ニ於テ登録實用新案

ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原實用新案權者

二 前號ノ原實用新案權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

者

特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 實用新案ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受クルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十二條 登録スヘシトノ査定アリタルトキ又ハ實用新案權存續期間延長ノ請求アリタルトキハ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ祕密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受クル際毎件登録料金十五圓ヲ納付スヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ毎件登録料金三十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審查官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十六條 審查官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十一條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル實用新案カ登録スヘキモノナリヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十七條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審查官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第十八條 審判ハ左ニ掲タル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無效

二 實用新案權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審查官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審查官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反スト

ノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

審查官ノ請求ニ依ル審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 特許法第八條、第十一條第一項及第三項、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第二十六條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條、第五十三條、第五十六條、第五十七條第五項、第六十條、第六十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項及第八十四條乃至第九一條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外實用新案權又ハ實用新案ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

實用新案ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十二條 實用新案ノ登錄ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ偽造、模造シタル者又ハ偽造品、模造品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登錄ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十三條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登錄ヲ受ケタル者

二 實用新案ノ登錄ヲ受ケタル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ實用新案登

錄ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ引札等ニ其ノ物品カ實用新案ノ登錄ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二十四條 第二十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ

損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

二十六條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

二十七條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無效ト爲リタル實用新案ノ登錄ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及百六條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

〔國務大臣男爵大浦兼武君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵大浦兼武君) 唯今議題ニ上ボリマシタ特許法、意匠法其他ノ大體説明ヲ致シマス、現行ノ特許法、意匠法、商標法ト云フモノハ明治三十年ノ制定デゴザイマシテ、主トシテ條約改正實施ノ必要ニ應ズル爲ニ、明治

二十一年ニ制定ノ特許條例、意匠條例及商標條例、ソレニ改正ヲ加ヘタルモノ  
デゴザイマシテ、爾後時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ改正補修ヲ要スル事項ガ少ナ  
カラヌノデゴザイマス、又實用新案法ハ明治三十八年ノ制定デゴザイマス、  
此實施ノ跡ニ徵スルニ又不便ヲ感ズルコトハ澤山ゴザイマス、且ツ特許法外  
二法ノ改正ト共ニ之ヲ改正スルノ必要ガアルノデゴザイマス、今其改正ノ要  
旨ヲ大略申セバ、第一ニ工業所有權ノ權利ヲ確實ニシ、成ルベク其負擔ヲ輕  
減シ、第二ニ私權ノ享有ト社會公衆ノ利益トヲ調和シテ行カナクテハナラ  
ヌ、第三ニハ出願請求ノ手續ヲ簡易ナラシメテ以テ其真正ノ考案者及商工業  
ノ保護ヲ努力ムルト共ニ不正競爭ノ弊害ヲ防遏スルト云フノヲ計ルト云フノガ  
趣意デゴザイマス、今ヤ我國ノ產業ノ發達ト云フモノハ此發明、實用ノ新案、  
意匠及商標即チ工業所有權保護ノ制度ノ改善ニ俟ツ所ガ最モ多イノデゴザイ  
マシテ、ソレガ即チ此四法ノ改正法律案ヲ提出シタル所以デゴザイマス、尙  
ホ會期切迫ノ場合デゴザイマシタケレドモガ、何卒速  
ニ御協贊ヲ願ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 此第二ヨリ第五マデノ四案ノ特別委員ハ同一委  
員デ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(侯爵黒田長成君) 御異議ガ無イト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第六、沖繩縣罹災救助基金法案、政府提出、衆  
議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告、委員長島津伯爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕

沖繩縣罹災救助基金法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十三日

右特別委員長

伯爵 島津 忠亮

〔伯爵島津忠亮君演壇ニ登ル〕

○伯爵島津忠亮君 唯今議題ニナツテ居ル所ノ沖繩縣罹災救助基金法案ノ特  
別委員會ノ結果ヲ御報告イタシマス、去ル十三日ニ特別委員會ヲ開キマシタ

所、内務大藏兩省カラ政府委員モ出席ニナリマシテ、種々質問モゴザイマシ  
タ末、審議ノ末、全會一致ヲ以テ可決イタシマシタ、此罹災救助基金法ト云  
フモノハ、明治三十二年ニ發布ニナリマシテ、内地ノ各府縣ニ於テモ實施サ  
レテ居ツタノデアリマス、ソレカラ又三十八年ニ北海道ニ對シテ別段ナル規  
定ガ設ケラレテ、是モ同様實施サレテ居ツタノデス、其當時ニ於キマシテハ、  
マダ沖繩縣ニ於テハ、極ク内地トハ事情ヲ異ニシテ居リマスル所デ、此法律  
ヲ適用スルニハ尙ホ早カラウト云フコトデ、除外サレテ居ツタサウデゴザイ  
マス、然ラバ如何ナル法律ヲ以テ沖繩縣ノ救助ヲ行ウタカト云フト、明治八年  
ノ太政官ノ窮民一時救助規則ト云フモノガ有ツタサウデス、ソレデ沖繩縣ノ  
救助ヲヤツテ行ツタノデス、内地若クハ北海道ニ於テモ、此法律ノ行ハレヌ  
以前ハ、ドンナ法律デ救助シテ來タカト申シマスレバ、唯今申ス太政官ノ窮  
民一時救助規則デ救助シテ來ツタモノデアルサウデアリマス、其後追々沖繩縣  
モ發達シテ參リマシタニ付イテ、昨年ノ法律第二號デ縣制ヲ施スコトニナリ  
マシタ、然ルニ同縣ハ内地トハ幾ラカ事情ヲ異ニスル爲ニ特別ノ規定ヲ設ケ  
マス必要ガアルト云フノデ、即チ此案ガ出マシタノデアリマス、併シ沖繩縣  
ハ沖繩縣相應ノ法律ヲ以テ救助スルト云フノ必要ガアリマシテ、特別ニ此案  
ガ提出セラレタノデアリマス、ソレデ第一條ニ「最少額ハ二十萬圓トス」ト  
アリマスノハ、是ハ北海道其他ノ例ニ倣ヒマシテ其縣ノ人口其他罹災救助ノ  
事情等ニ依ツテ斯様ニ致シタモノデアルサウデアリマス、ソレカラ第二條ニ  
積立金ハ毎年三千圓以上トスルト云フノハ、矢張リ是モ此位ノ負擔ハ出來ル  
ト云フ所カラ、三千圓以上ト云フコトニ地方長官ノ上申等デ決マツタサウデ  
アリマス、ソレカラ沖繩縣ニハ舊藩時代カラ一種ノ救助米ト云フモノガ交付  
サレテ居ツタ、ソレカラ廢藩後ニナツテ之ヲ金ニ換ヘマシテ是モ約、年ニ九  
千二百圓ト云フモノヲ國庫カラ補助シテアリマシタサウデアリマス、併ナ  
ガラ是ハ永遠ニ救助スル性質ノモノニナツテ居リマス爲ニ補助シテ居リマシ  
タガ、此度自治制ニナリマシタニ付イテ、先づ五年間ハ舊ノ通リニシテ置カ  
ウト云フコトニナツテ、即チ五年間ハ毎年九千圓ヲ交付スルト云フコトニナ  
リマシタノデ、ソレカラ又第一條ニアリマス二十萬圓ト云フ額ニ達スルマデ  
ニハ、何年グラキ掛カルデアラウカト云フト、二十六七年モ掛カルデアラウ  
ト云フコトデアリマスガ、其最少額ニ達スルマデニハ、成ルベク確實ニシタ  
方ガ宜イト云フノデ、即チ猶豫ヲ與ヘテ、四十年ト云フコトニシテアルサウ

デアリマス、先づ大體斯様ナ次第デアリマシテ、各委員モ反對スル者モナク、全會一致デ可決イタシマシタ、チヨット終リニ臨ンデ申上グテ置キマスガ、

此委員中ノ永ラク同縣知事ヲシテ居ラレタ奈良原男爵ハ他ニ已ムヲ得ヌ事故ガアツテ十三日ニハ缺席ニナリマシタガ、其翌日私ノ宅ニ見エラレテ、此委員會ニ缺席シタノハ殘念デアルガ、略々之ニ對スル事情ヲ申述ベテ置クカラ、

私ニ皆様ノ前デチヨット此事ヲ申述ベテ吳レルヤウニト云フ御依頼デアリマシタ、ソレハ明治二十四五年以來、二十八九年マデ、一般租稅ガ沖繩縣ニハ

五十万圓グラキ有ツタサウデス、ソレカラ日露戰爭以來、今日マテノ所デハ、段々増シマシテ二百五十五万圓グラキニ増シテ參ツタ、ソレカラ砂糖、織物、泡盛等ノ消費稅ノ如キモ皆他ノ府縣トハ情實ヲ異ニシテ、皆他ニ出ル物バカ

リト云フヤウナ次第デアリマス、乃チ三十二年ニ徵兵令ヲ施カレマシテ、日露ノ役ニハ、戰死病死合セテ二百四十八人ニ達シマシタサウデアリマス、固ヨリ租稅ト戰役ハ國民ノ義務デアツテ、沖繩縣ニ於テモ十分ニ義務ヲ盡シタ

ト云フベキモノデアル、此點カラ考ヘテモ、沖繩縣ハ他ノ府縣ニ讓ル所ハ無イト考ヘル、サウシテ又、沖繩縣ニ於テ罹災ノ頻繁ナルコトハ内地ニ其比ヲ見マセヌ、三箇年ニ一度クラキハ必ズ大風ノアルコトヲ免レナイ、現ニ奈良

原君ガ在職中、大風ノ爲ニ大變損害ヲ受ケ、叡聞ニ達シテ勅使ヲ御遣ハシニナツタコトガ、同氏ノ在職中ニ四度アツタ云フコトデアリマス、隨分澤山アツテ、他ニサウ云フ類ハ餘リ無カラウト思ヒマス、サウ云フ事情デアリマスカラ、ドウカ是ハ特別ノ救助法ヲ制定ニナツテ宜カラウト云フコトデ、ドウカ此事ヲ皆様ニ御話ヲスルヤウニト云フコトデゴザイマシタ、尙ホ委シイコトハ政府委員若クハ前知事ノ奈良原君ニ御尋ネニナルガ宜カラウト思ヒマス、右ノ次第デアリマスカラ、ドウゾ讀會ヲ省略シテ速ニ可決セラレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵大原重朝君 讀會省略贊成

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵堤功長君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○石井省一郎君 贊成

○伯爵眞田幸世君 贊成

○伯爵大原重朝君 讀會省略贊成

○子爵鍋島直彬君 贊成

○子爵堤功長君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○男爵眞田幸世君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 讀會省略ノ動議ニ成規ノ贊成者ガアツタト認メマス、讀會省略ノ動議ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 三分ノ二以上ト認ノマス、讀會ハ省略セラレマシタ

○副議長(侯爵黒田長成君) 本案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ハ無イト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第七、軌道ノ抵當ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第八、擔保附社債信託法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

○副議長(侯爵黒田長成君) 第七、軌道ノ抵當ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第八、擔保附社債信託法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

○副議長(侯爵黒田長成君) 第七、軌道ノ抵當ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第八、擔保附社債信託法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

○副議長(侯爵黒田長成君) 第七、軌道ノ抵當ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、第八、擔保附社債信託法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十六日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

擔保附社債信託法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十六日

右特別委員長

伯爵 德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 唯今議題ニ上ボリマシタ所ノ軌道ノ抵當ニ關スル法律案、竝ニ擔保附社債信託法中改正法律案、兩案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報道申上ゲマス、此委員會ハ兩日開キマシテ慎重ニ審議ヲ致シマシタ、政府委員カラモ説明ヲ請ヒマシタ、此事ハ既ニ本議場ニ於テ政府委員カラ述ベラレタ如キコトデ諸君モ御承知デゴザイマセウガ一應申上ゲマセウ、軌道條例ニ依ル所ノ軌道ハ性質上カラ申シテモ、又效用上カラ申シテモ鐵道ト變リガゴザイマセヌ、併ナガラ軌道ノ抵當ニ對シテハ是マデ法律ガ制定ニナッテ居リマセヌシ、鐵道ノ方ハ先年鐵道抵當法ガ施行サレテ居リマスケレド、此法ノ中ニハマダゴザイマセヌ故ニ此度此軌道ノ抵當ニ關スル法律ヲ制定セラレタ譯デゴザイマス、併ナガラ此鐵道抵當法ハ私設ノ株式會社ノミニ適用スルコトデゴザイマシテ、軌道ノ方ハ株式會社ニ非ズシテ個人其他ノ會社ノコトデゴザイマスト、總テノ鐵道ノ法ニ依ルト云フ譯ニ行カヌサウデアリマス、ソレカソレ故ニ株式會社ニ非ザル所ノ會社若クハ個人ノ營業スル所ノ軌道ニ對シテハ本案ヲ適用スル、其以外ハ皆鐵道抵當法ヲ準用スルト云フ趣意ダサウデゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ色ニ質問モゴザイマシタガ、是ハ一々申スノモ煩ハシイコトデアリマスカラ、略シテ置キマスガ、其内特ニ質問ニ付イテ此所デ御報告申シテ置カネバナラヌ所ハ、此法律案ノ第四條ノ所ニ「軌道營業者カ株式會社ニ非ナル場合ニ於ケル軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル」ト云フコトガゴザイマス、是ハ政府委員ガ申サレタ通りニ軌道營業者ガ株式會社デナイ場合ニハ總テ此軌道ノ抵當ニ關シテハ勅令デ定メルト云フ譯デアル、然レバ此鐵道抵當法ノ第四章ノ第九十二條罰則ノコトナドハ勅令デ規定ヲスル譯デアルガ、民事罰ノ斯ウ云フ事ヲ勅令デ規定スル所ノ例ガ是マデアルカ、少シドウモ罰則マデモ勅令デ規定スルノハ穩當ヲ缺キハセヌカト云フ質問ガゴザイマシテ、品ニ依レバ此所ノトコロヲ修正デモセヌケレバナラヌヤウナ模様デゴザイマシテ、一時ハ修正ガ出ルカト思ヒマシタ、所ガ政府委員ノ申サレルニハ直キト此所デハ御答ガ出來スカラ他日ノ委員會デ御答ヲスルト云フコトデ、修正モ出ルトモナク其儘デ終ツテ居リマシタ、其後ノ委員會ノ時ニ政府委員ガ答ヘテ申スニハ、段々調ベタ所ガ勅令ニ依ッテ罰則ヲ規定スル所ノ例ガアルサウデス、ソレハ明治三十三年九月二十七日勅令第三百八十號、是ハ外國保險會社ニ關スル件デ、チヨット此所デ適用シテ

申セバ其内ノ第十四條ニ「外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル」ト云フコトガアル、ソレカラ又韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル勅令、是ハ明治四十年三月十三日勅令第三十一號、此九條ニモ前ニ申上ゲタヤウナ同ジャウナ意味ノ罰則ガ舉ツテ居ル、斯ウ云フコトガアル故ニ、勅令デ罰則ヲ規定シテモ差支ナカラウト云フコトデアリマシタ、ソレカラバ能ク分ツテ居ルカラ別ニ修正ヲ出ス必要モナイト云フコトデ質問ダケニ止マリマシタ、ソレヨリ討議ニ移リマシタ所ガ、別ニ贊成反対ノ議論モ無ク全會一致ヲ以テ可決スベキモノト議決ニナッタ次第デゴザイマス、ソレカラ此擔保附社債信託法案ノ方ハ前ノ軌道ノ抵當ニ關スル法律案ガ制定セラレタ結果トシテ現行ノ法律ノ第四條ニ軌道抵當ト云フ文字ヲ入レマシテ……現行ノ第四條ニハ社債ニ附スルコトヲ得ベキ物上擔保ノ種類ガ書イテアル、例ヘテ見レバ第一ハ動產質、第二ハ證書アル債權質、不動產抵當、船舶抵當、鐵道抵當、工場抵當、鑄業抵當、斯ウ云フコトガアツテ、此軌道ノ抵當ニ關スルコトガ出來タ以上ニハ軌道抵當ト云フ字ガナケレバナラヌ譯デアリマスカラ、是ハ前ノ法律ノ結果デアツテ、之ニ付イテハ自然ノ結果デスカラ、質問モ議論モ無ク、勿論前ノ案ガ可決スレバ自然ニ可決スベキモノデアルト云フ譯デアリマシタ、先づ二案ニ對スル委員會ノ經過竝ニ結果ハ右御報道申上ゲタヤウナ次第デアリマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、序デニ申上ゲテ置キマスガ、兩案トモ至ツテ簡單デ意義明瞭デアリマスカラ、讀會省略デ委員會ノ議決通リニ可決アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵田健治郎君 讀會省略贊成

○子爵鳥居忠文君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵青木信光君 贊成

○男爵松平正直君 贊成

○西村亮吉君 贊成

○副議長(侯爵黒田長成君) 読會省略ニハ成規ノ贊成者ガゴザイマシタ、之ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 三分ノ二以上ト認メマス、兩案トモ讀會ハ省略セラレマシタ

○副議長(侯爵黒田長成君) 軌道ノ抵當ニ關スル法律案、之ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 擔保附社債信託法中改正法律案、御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ハ無イト認メマスカラ、原案ニ決シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第九、獸疫豫防法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

右本院提出案及送付候也  
明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿  
第一讀會  
右本院提出案及送付候也  
明治四十二年三月十六日

○副議長(侯爵黒田長成君) 第十、蠶病豫防法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

獸疫豫防法中左ノ通改正ス

第十條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
五 乳汁發賣ヲ禁止シタルトキ 評價額三分ノ二

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭二百圓、第三ノ場合ニ於テハ一頭五百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計五十圓、第五ノ場合ニ於テハ一頭三十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

〔政府委員押川則吉君〕 唯今議題ニ上ボッテ居リマス獸疫豫防法中ノ改正

○政府委員(押川則吉君) 唯今議題ニ上ボッテ居リマス獸疫豫防法中ノ改正

ノ事項ハ、是ハ牛疫ノ流行ノ際ニ適用スル條項デゴザイマシテ、此修正ノ趣意ハ、牛疫ノ防遏ノ爲ニ撲殺ヲスル牛ニ對シテノ手當金ヲ増スト云フコト、竝ニ廢棄スペキ器具ノ手當金ヲ増スト云フコト、竝ニ廢棄ニ屬セシムベキ乳汁ニ手當ヲ給スルヤウニシタイト、斯ウ云フノガ改正ノ趣旨デゴザイマス、シテ居リマスル手當ハ、一頭二百圓デゴザイマスノヲ、五百圓ニ増額スルト云フコトニ付イテハ、同意ヲ表シ兼ネルノデアリマス、且ツ此牛疫ノ流行ノコトハ、多ク朝鮮ヨリ輸入シテ來ル所ノ牛ヨリ起ルノデゴザイマシテ、此朝鮮ヨリ輸入スル牛ノ檢疫ノコトニ付キマシテ、目下政府ハ韓國政府ニ交渉イタシテ居ル事項ガゴザイマスノデ、此交渉ノ結果ニ依リテハ獸疫ノ豫防法ノ改正ヲ自ラ要スル廉ガアルト思フノデアリマス、故ニ今日ハ此改正ノ條項ニモ同意ノ出來ヌ廉ガアルノミナラズ、今日獸疫豫防法ヲ改正スルノ相當ノ時期デナイト考ヘテ居リマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 御質問ガゴザイマセネバ次ノ日程ニ移リマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第十、蠶病豫防法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

右本院提出案及送付候也  
明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

蠶病豫防法中左ノ通改正ス

第十八條 蠶病豫防事務ノ費用ハ國庫ノ支辨トス

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
附則  
〔政府委員押川則吉君〕

○政府委員(押川則吉君) 蠶病豫防法ノ改正ハ唯一箇條ノ改正デゴザイマスル、併ナガラ是ハ蠶病豫防法ニ付イテハ最モ重大ナル關係ヲ持ツテ居ルノデ

ゴザイマス、第十八條ノ「蠶病豫防事務ノ費用ハ國庫ノ支辨トス」ト云フ改正

デゴザイマシテ、是ハ御承知ノ通り今日ハ蠶病豫防ノ事務ノ費用ハ府縣ノ負

担トスト云フコトニナツテ居リマス、而シテ其費用ノ半額以内ヲ國庫ヨリ補助

スルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、

ニドレダケノ費用ヲ費ヤシテ居ルカト申シマスト、凡ソ九十万圓費ヤシテ居

リマス、之ニ向ツテ今日國庫ガ補助シテ居ルノハ十万圓バカリデゴザイマス、

然ルニ此條項ヲ改正イタシマスト云フト、第一ニ此施行ノ初メニ於テ、今日

ノ府縣ノ支辨ニ屬シテ居ル所ノ建物其他器具ニ付イテモ、數十万圓ノ費用ヲ

國庫ヨリ支出セネバナラスト云フコトニナリマスノデ、九十万若クハ今後此

蠶種製造高ガ增加イタシマスト云フト百万圓ニモナラウト思ヒマスガ、ソレ

等ニ向ツテ總テ國庫ヨリ支出セネバナラスト云フコトニナリマスカラ、財政

上ニ於テモ容易ニ同意ガ出來ヌノデゴザイマス、且ツ此蠶病豫防ノ事務上ヨ

リ申シマシテモ、之ヲ國庫ノ直轄ニ爲スト云フコトハ果シテ適當ナルコトデ

アルヤ否ヤ、此事ニ付イテハ相當ナ疑ヒヲ有ツテ居リマス、故ニ此改正案ニハ

同意ハ出來ヌノデアリマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 次ノ日程ニ移リマス、第十一、貴族院及衆議院速記技手恩給並遺族扶助料ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會貴族院及衆議院速記技手恩給並遺族扶助料ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十二年三月十六日

衆議院議長 長谷場 純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

明治二十三年九月以後貴族院及衆議院ノ速記ニ從事シタル者速記技手ニ任用セラレタルトキハ其ノ技手任用前ノ勤務年月數ヲ在官年月數ニ算入ス但シ加算ノ年月數ニ對シテハ官吏遺族扶助法第二條ヲ適用セス

○副議長(侯爵黒田長成君) 次ノ日程ニ移リマス、第十二、渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十七日

右特別委員長

西村 亮吉

貴族院議長公爵德川家達殿

(西村亮吉君演壇ニ登ル)

○西村亮吉君 諸君、渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律案、此委員會ノ經過ヲ御報告イタシマスル、委員會ハ去ル十五日同日十七日兩度ニ

開會ヲ致シマシタ、此改正法律案ハ前議會ニモ衆議院ヨリ提出ニ相成リマシ

タ案デアリマスカラ、委員會ニ於テハ一層注意シテ調査ヲ致シマシタ、此案ニ付キマシテハ政府委員ハ渡良瀬川沿岸鑽毒被害地方ノ處分ニ付キマシテ當

初ヨリノ事ヲ詳細ニ説明セラレマシタ、又委員諸君ヨリモ反覆質問ニ相成リ

マシテ、ソレニ對シテ政府委員ハ詳ニ答辯ヲセラレマシタ、之ヲ逐一申上ゲ

マスルト大分長クナリマスカラ略シマシテ要點ヲ摘ンデ申上ゲマセウト存ジ

マス、此渡良瀬川沿岸地方ノ宅地山林原野沼池等ハ多少ノ害ヲ被ツテ居ルト

云フコトハ認メテ居ルカナレドモ、地價ヲ修正セネバナラスト云フ如キ害ハ

認メナイ、此鑽毒被害地方ノ處分ニ付キマンテハ、曩ニ特ニ設ケラレタル鑽

毒調査會ニ於テ詳細ナル調査ニナツテ田ト畠トニ付イテハ地價ヲ修正スル必

要ガアルト云フコトニ調査ヲセラレタ、尤モ田畠ノ外ノ宅地山林原野沼池等

ハ被害ハ至ツテ輕微ナルモノデアッテ地價修正ヲスル必要ハナイト鑽毒調査會

デ決定ヲシマシテ、其決定ニ基イテ此法律ガ制定ニ相成ツタ、既ニ田畠ノ地價

修正ト云フモノハ完了シテ居ル、然ルヲ今日ニ至ツテ此法律ヲ改正シテ宅

地山林原野沼池等ノ地價ヲ修正スルト云フコトハ政府ハ同意ガ出來ナイ、斯

ウ云フ政府委員ノ説明デアリマシタ、又委員ノ質問ハ、此法律ハ當時鑽毒被

害ノ田畠ノ地價ヲ修正スル爲ニ設ケラレタ法律デアッテ、永久ニ此法律ヲ施行

シテ行クモノデアルカ、又ハ其當時地價ヲ修正スル爲ニ設ケラレタ法律デ永

續ハセヌモノデアルカ、ドウデアルカト云フ質問ガアリマシタ、ソレニ對シ

テ政府委員ハ、此法律ハ鑽毒調査委員會デ詳細ノ調査ヲ爲シテ、之ニ基イテ

制定ニ相成ツタ法律デアッテ、將來ニ永續スル法律デハナイ、斯ウ云フ答デア

リマシタ、又質問ニ現今宅地ノ一段歩ノ地價ト云フモノハドレ位デアルカ、

將來宅地地價ヲ修正スルノ見込ノ地價ハドレ程ニナツテ居ルカ、其地租ハ修正

ニナルト増シニナルカ、是ハドウ云フモノデアルカ、又山林原野、雜種地等ハ一段歩デ地價ハドノ位デアルカ、現今賣買ノ價ハドレ程ニナツテ居ルカト云フコトノ質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ政府委員ハ市街宅地ハ現在一段歩ノ地價ハ七十二圓四十二錢九厘、郡村ノ宅地ハ二十七圓七十五錢九厘、ソレデ將來改正ニナルト云フ見込ノ地價ハ、市街宅地ハ七百二十七圓二十七錢八厘、郡村ノ宅地ハ九十八圓四十七錢五厘、斯ウ云フモノニナツテ居ル、地租ハドウナルカト云フニ對シテハ、地租ハ現今ノ地租ヨリモ増ス見込ハ無イ、斯フ云フ答デアリマシタ、又山林ノ一段歩ハドノ位デアルカト云フニ、是ハ二圓ト二錢六厘、原野ハ四十八錢、雜種地ハ七錢三厘、斯ウ云フモノデアル、現今賣買ノ價格ハ即今調ベタモノハ無イ、斯ウ云フ答デアリマシタ、是ガ質問ヲ致シマシタ一番肝要ナ點デアッタト思ヒマス、之ニ對シテ委員ハ此案ヲ可トスル者ハ一人モアリマセヌ、出席員總テ可トスル者ナクシテ、此案ハ否決スルコトニナリマシタ、此事ヲ御報告イタシマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 少數ト認メマス、本案ハ否決セラレマシタ

第一讀會ノ續、委員長報告

○副議長(侯爵黒田長成君) 第十三、建物保護ニ關スル法律案、衆議院提出、建物保護ニ關スル法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十八日

右特別委員長

伯爵廣澤金次郎

〔小字ハ特別委員ノ修正  
ハ同削除ノ符號〕

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃貸借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ

ニナルト增シニナルカ、是ハドウ云フモノデアルカ、又山林原野、雜種地等ハ一段歩デ地價ハドノ位デアルカ、現今賣買ノ價ハドレ程ニナツテ居ルカト云フコトノ質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ政府委員ハ市街宅地ハ現在一段歩ノ地價ハ七十二圓四十二錢九厘、郡村ノ宅地ハ二十七圓七十五錢九厘、ソレデ將來改正ニナルト云フ見込ノ地價ハ、市街宅地ハ七百二十七圓二十七錢八厘、郡村ノ宅地ハ九十八圓四十七錢五厘、斯ウ云フモノニナツテ居ル、地租ハドウナルカト云フニ對シテハ、地租ハ現今ノ地租ヨリモ増ス見込ハ無イ、斯フ云フ答デアリマシタ、又山林ノ一段歩ハドノ位デアルカト云フニ、是ハ二圓ト二錢六厘、原野ハ四十八錢、雜種地ハ七錢三厘、斯ウ云フモノデアル、現今賣買ノ價格ハ即今調ベタモノハ無イ、斯ウ云フ答デアリマシタ、是ガ質問ヲ致シマシタ一番肝要ナ點デアッタト思ヒマス、之ニ對シテ委員ハ此案ヲ可トスル者ハ一人モアリマセヌ、出席員總テ可トスル者ナクシテ、此案ハ否決スルコトニナリマシタ、此事ヲ御報告イタシマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 少數ト認メマス、本案ハ否決セラレマシタ

第一讀會ニ移ベントスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

建物ノ所有ヲ目的トスル土地ノ賃貸借カ其ノ期間ノ滿了ニ因リ終了スル場合ニ於テハ賃借人ハ建物ノ存續スル場合ニ限リ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ得更新シタル期間ノ滿了ニ因リ賃貸借ノ終了スル場合亦同シ前項ノ期間ハ通シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス若契約ノ當時定マリタル建物ノ構造又ハ用方ニ因リ之ヨリ短キ期間ヲ相當トスル場合ハ其ノ期間ニ依ル

第三條 當事者カ建物ノ所有ヲ目的トスル土地ノ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ其ノ賃貸借ハ建物ノ朽廢スヘキトキニ終了ス但シ民法第六百四條ノ適用ヲ妨ケス

前項ノ場合ニ於テ賃借人ハ民法第六百十七條第一項ノ規定ニ依リ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得

第四條 民法第五百六十六條第一項第三項及第五百七十一條第一項ノ規定ハ第一條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス買主カ契約ノ當時知ラサリシ地上權又ハ賃借權ノ效力ノ存スル場合亦同シ

本法ハ本法施行前ノ設定行爲又ハ契約ニ因ル地上權又ハ土地ノ賃貸借ニモ之ヲ適用ス

〔伯爵廣澤金次郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵廣澤金次郎君 唯今議題ニ上ボリマシタ建物保護ニ關スル法律案ノ特別委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、此建物保護ニ關スル法律案ハ俗ニ稱シマスル地震賣買防遏ノ案デアリマシテ、種々世間ニモ喧マシイ問題デアリマスカラ、少シク報告ガ長クナリマスカラ其點ハ豫メ御容赦ヲ願ヒマス、本案ノ委員會ハ都合三回開キマシテ、政府委員ニ質問ヲ致シマスシ、又

政府ノ本案ニ對スル意見モ委シク聞キマシテ、其結果ト致シマシテ第一回ノ委員會ニ於キマシテ、委員何レモ本案ハ法理上不十分ノ點ガアルシ、且又少シク偏輕偏重ノ嫌ヒアル案デアリマスニ依ッテ、委員中ヨリ更ニ小委員ヲ設ケマシテ、三名ノ小委員ヲ設ケマシテ、三名ノ小委員カラ政府委員ト協議ヲシテ貰ツテ、而シテ成ルベク公平ノ修正ヲ致スコトニシタノデアリマス、デ唯今御手許ニアリマス委員會ノ修正案ハ即チ此小委員、殊ニ委員中ノ法律ニ明ルキ三君ニ願ヒマシテ、政府ト十分協議ノ上、此修正案ヲ提出シタノデアリマス、本案ノ衆議院ニ提出ニナリマシタル理由ハ、第一ハ賃貸借ノ登記ノ出來ザル爲メ借地人ノ困難ヲシマスルヲ救助シマスルノト、第二ハ登記ノ方法ヲ採ラズシテ救濟ノ途ヲ與ヘヤウ、此二點デアリマス、即チ此二點ハ俗ニ申シマスル地震賣買ト申シマスル一種ノ詐欺的賣買ヲ防遏スルノ目的デアリマス、此地震賣買ナルモノハ、或ハ諸君ノ中ニモ御分リニナラヌ御方ガアルカト考ヘマスルカラ、御参考ノ爲ニ、此地震賣買ナルモノハ如何ナルモノデアルカト云フコトヲ、先ヅ冒頭ニ申上ゲテ置カウカト考ヘマス、此地震賣買ト申シマスルノハ二種類アルト考ヘマス、第一ハ借地期間中ニ突然ニ第三者ニ賣却シマシテ、其第三者ガ借地人ニ對抗權ノ無キヲ奇貨ト致シマシテ明渡シヲ請求シテ、即チ明渡シ請求ノ名ヲ以テ過當ノ借地料ヲ請求スルカ、或ハ過當ノ地代ヲ請求スルノガ、第一ハ借地期間中ニ突然ニ第三者ニ賣却シマシテ、其第三者ガ借地人ノ豫期ニ反シマシテ、今申シタ通リ矢張リ過當ノ地代ヲ請求スルカ、或ハ過當ノ借地料ヲ請求スルカ、此二ツノ方法デアリマス、即チ此本案ノ第一條ハ此地震賣買ヲ防遏スル爲ニ出來タ案デアリマス、即チ建物ノ保存登記ガアリマスレバ、賃借權若クハ地上權ノ登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ト云フノガ、即チ此第一條ノ精神デアリマス、而シテ此第二條、衆議院ノ原案第二條以下ハ借地期間ノ短キ點ニ付キ、之ニ保護ヲ與ヘタノデアリマス、サウシテ先ヅ第一條ヲ申上ゲマスレバ、此第一條ハ今申シマシタ通リ建物ノ保存登記ノミニシテ地上權若クハ賃貸借權ノ登記ガ無クシテ、之ヲ第三者ニ對抗サセント云フコトハ、是ハ民法及登記法ノ大原則ニ違ツテ如何ニモ餘リ面白クナイ條項デアルノデアリマス、依ッテ小委員ニ於キマシテモ、何カ此第一條ニ代ルベキ案、即チ民法及登記法ノ原則ヲ破ラズシテ、而シテ借地人ニ對抗ノ權利ヲ與ヘタイト云フ精神ヲ以チマシテ、小委員及委員會ニ於キマシテモ、之ニ代ルベキ名案ヲ餘ホド練ツタノデアリ

マス、併ナガラ遺憾ナガラ第一條ハ、此一條ノ文面ニ致シマシテハ或ハ不十分ナ所ハアリマスルケレドモ、之ニ代ルベキ名案ヲ發見シナカッタノデアリマス、故ニ此第一條ハ兎ニ角今日地震賣買ト申シマスル詐欺的手段ノ賣買ガ行ハレル以上ハ、之ヲ防遏スルノ必要アリト考ヘマシテ、聊カ不十分ナガラ此第一條ヲ存シタノデアリマス、此第二條ニ於キマシテハ、是ハ法律ヲ以テ地上權ノ最短期ヲ一定スルコトニナリマスルノデ、即チ賃貸借ノ期間ガ満了シマスル場合ニ賃借人一方ノ意思ヲ以テ二十年ニ達スルマデ其期間ヲ更新スルコトヲ得ルト云フコトガ眼目ニナツテ居ルノデアリマス、即チ賃貸借ニ付キマシテハ、借地人ナル當事者一方ノ意思ヲ以テ契約ノ條件ヲ變更スルコトヲ採ラズシテ隨分思切ツタ規定デアルノデアリマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ、此二條及三條ノ事ハ、此賃貸借ニ付キマシテハ、地主及借地人トノ關係ニ付キマシテハ、此外ニモ又餘ホド審議熟慮スベキ點ガ澤山アリマスルカラ、今日斯ノ如キ二條三條ノ如キモノヲ茲ニ制定スル必要ハ無イト云フノデ、詰リ借地權ニ關シマシテハ、立法上他ニ研究スベキ問題ガ多々有リマスルガ故ニ、是ハ宿題トシテ又他日茲ニ本案ノ如キモノヲ茲ニ制定スルカラ、今日斯ノ如キ二條三條ノ如キモノヲ茲ニ制定スル必要ハ無イト云ナイト云フ趣意ヲ以チマシテ、此第二條ハ削除ニナツタノデアリマス、デ第二條ヲ削除シマシタニ付キマシテハ、即チ賃貸借ノ期間ヲ定メナイ場合デアリマスルカラ、第三條モ即チ同ジ理由デ以テ茲ニ削除ノ必要ヲ認メタノデアリマス、デ第四條ヲ茲ニ存シマシタ理由ニ付イテ申上ゲマスルガ、此四條ノ規定ハ善意ノ土地買得者ヲ保護スル爲ニ、詰リ賣買ノ契約ノ目的物ガ違ツタ場合ニハ此契約ヲ解除スルコトヲ得セシムルト云フ他ノ契約ニ關シマスル民法ノ規定ト權衡ヲ得テ至當デアルデアラウト云フノデアリマシテ、此第四條ハ存シタノデアリマス、四條ト申シマスノハ修正ニナリマスルト第二條ニナリマス、次ノ附則デアリマスルガ、此附則ハ第二條第三條ヲ削除スレバ、茲ニ此附則ヲ設クル必要ハ自然ト無イノデアリマシテ、附則ハ削除ニナツタノデアリマス、故ニ委員會ノ修正案ハ御手許ニナリマスル如ク衆議院送付案ノ第一條ヲ其儘ニ存シテ置キマシタ、次ニ二條三條ヲ削除イタシマシテ、四條ヲ二條ト改メマシタ、ソレカラ附則ハ全部コレモ削除ニナツタノデアリマス、詰リ斯ノ如キ修正デアリマスル、デ委員會ニ於キマシテモ、此修正案ヲ以テ買ヲ防遏スルダケノコトハ講ジナケレバナラスト云フコトガ委員會ノ意見デ

アリマス、故ニ諸君ノ御手許ニアリマスル如キ修正案ヲ提出シタノデアリマス、ドウゾ諸君ニ於カレマシテモ委員會ノ修正案通リニ本議場デ御可決アラムコトヲ希望イタシマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ採決イタシマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○伯爵廣澤金次郎君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔「贊成」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 廣澤伯爵ノ直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) ソレデハ直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 委員長報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵廣澤金次郎君 直チニ三讀會ヲ引續イテ開カレムコトヲ希望イタシマス

〔「贊成」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 直チニ第三讀會ヲ開クト云フ廣澤伯爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) ソレデハ直チニ第三讀會ヲ開キマス、……原案ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第十四、商法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

明治四十二年三月十八日

商法中改正法律案

右特別委員長

伯爵 柳原 義光

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵柳原義光君演壇ニ登ル〕

○伯爵柳原義光君 唯今議題ニナツテ居リマス商法中改正法律案ノ委員會ノ経過並ニ結果ヲ御報道申上ゲマス、此委員會ハ去ル八日ニ開キマシテ其時ハ單ニ正副委員長ノ選舉ダケデアツタノデゴザイマス、再び昨十八日ニ此委員會ヲ開キマシテ其時ニ政府委員ノ出席ヲ請ヒマシテ、種々質問ノ上、審議ノ末、

僅カ委員中一名ノ賛成者ガアツタノミデ他ハ皆反對サレテ此案ハ否決ト相成ツタノデアリマス、其理由ハ詰リ政府モ此商法全部ヲ改正シタイト云フ意思ガアルサウデ、遅クモ此次ノ議會ニハ商法全部ノ改正案ヲ提出サレル考デアルサウデゴザイマス、故ニ委員ノ大部分モ此本案ノ内容ニ敢テ反對デハ無イノデアリマスケレドモ、此次ノ議會マデ待ツコトガ出來ナイホド焦眉ノ急ヲ要スル程ノ改正ノモノデナイト云フコトヲ認メラレタノデアリマシテ、尙又此條項ノミヲ改正スレバ他ニ波及シテ如何ナル不都合ノ點ヲ釀スヤモ知レヌカラ、兎ニ角此次ノ議會ノ時、全部改正案ヲ提出セラル、マデ待ツタ方ガ宜カラウト云フ考デ、内容ニ反対ハ無イノデアリマシタガ、唯此次マデ待ツト云フ考デ反対ニナツタノデアリマス、委員中タゞ一人此案ヲ賛成サレタ其賛成者ノ言ハレルノニ、兎ニモ角ニモ改正ノ必要ヲ認メタノデアレバ先づ取敢ヘズ改正ノ必要ヲ認メタ條項カラ改正ヲシタ方ガ宜イデハナイカト云フ意見ヲ立テラレタノデアリマス、併ナガラ前申上ゲマス如ク委員ノ多數ハ此次ノ議會ニ商法全部改正案ノ提出ナル、マデ待ツテ居テ遅クハナイト云フノデ此案ハ否決ニナツタノデアリマス、此段御報道申上ゲマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議ガゴザイマセネバ採決イタシマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○副議長(侯爵黒田長成君) 少數ト認メマス、本案ハ否決サレマシタ

ナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ書記官長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

耕地整理法改正法律案特別委員

子爵渡邊昇君 子爵鍋島直彬君 子爵大宮以季君  
男爵園田安賢君 前田正名君 村田保君  
男爵青山元君 仁尾惟茂君 下郷傳平君

特許法改正法律案外三件特別委員

伯爵廣澤金次郎君 子爵加納久宜君 子爵一柳末徳君  
男爵沖守固君 男爵田健治郎君 下條正雄君  
岡野敬次郎君 木村誓太郎君 鎌田榮吉君

獸疫豫防法中改正法律案特別委員

男爵北垣國道君 子爵青山幸宜君 子爵山口弘達君  
男爵岡内重俊君 男爵四條隆平君 男爵佐野延勝君  
石井省一郎君 谷新助君 辰巳楨太郎君

蠶病豫防法中改正法律案特別委員

侯爵佐竹義生君 子爵内田正學君 子爵鍋島直虎君  
子爵牧野貞寧君 宮本小一君 男爵新田忠純君

男爵山内豊政君 得能通昌君 道源權治君

貴族院及衆議院速記技手恩給並遺族扶助料ニ關スル法律案特別委員

伯爵吉井幸藏君 子爵裏松良光君 子爵久留島通簡君

小牧昌業君 男爵石黒忠恵君 男爵中川興長君

男爵高崎安彦君 西村亮吉君 土居通博君

○副議長(侯爵黒田長成君) 次會ノ議事日程ハ追ツテ本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ散會ヲ致シマス

午前十一時十八分散會